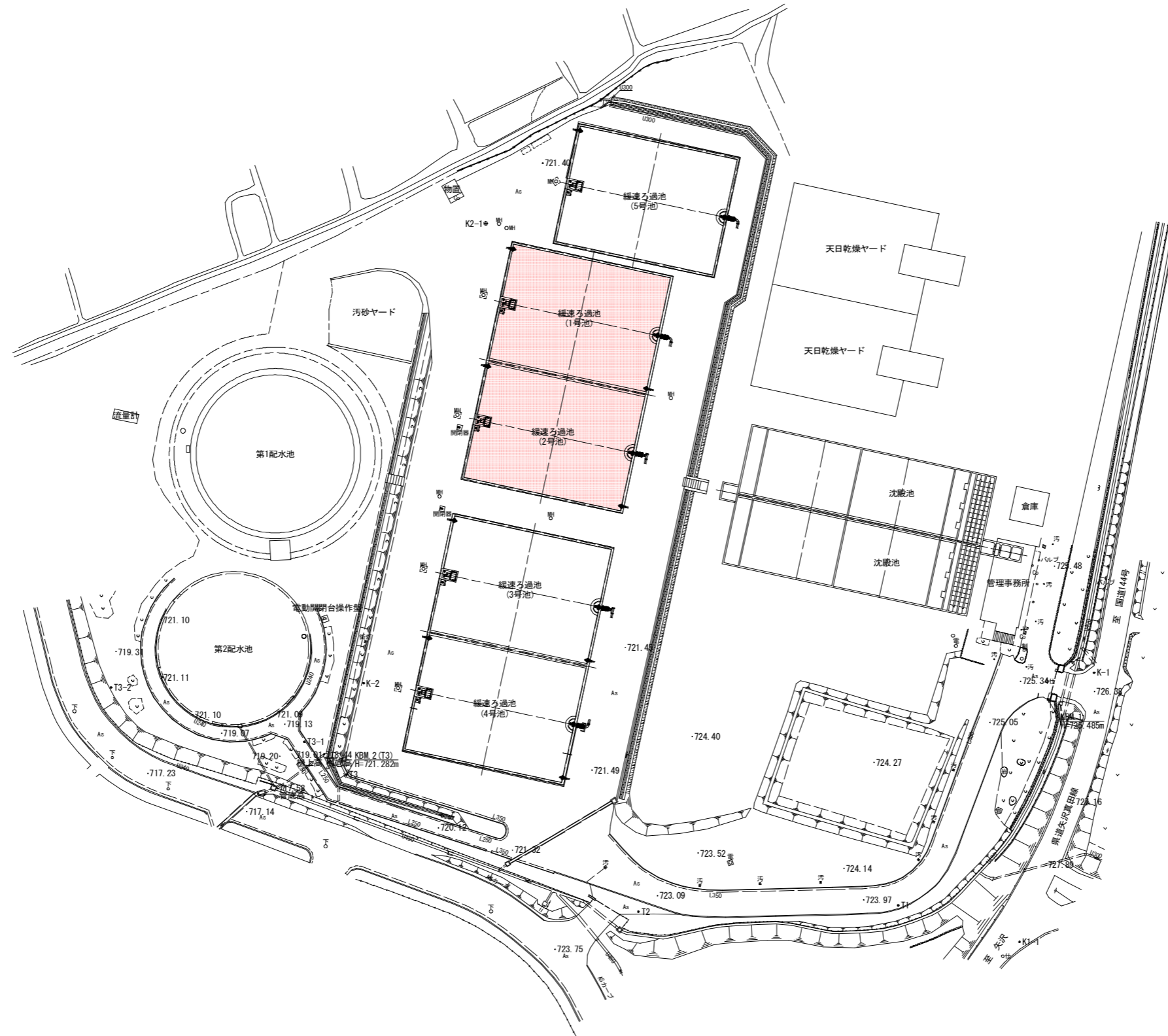
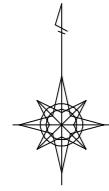


石舟浄水場 現況平面図 S=1:500



補強工事対象施設(緩速ろ過池 1・2号池)

測点名	X座標	Y座標
K-1	49267.587	-16160.037
K-2	49265.465	-16307.919
T1	49220.486	-16199.703
T2	49219.216	-16252.295
T3	49246.930	-16311.408
T3-1	49253.584	-16319.905
T3-2	49264.586	-16359.050
K1-1	49213.098	-16175.134





世界測地系(測地成果2011)

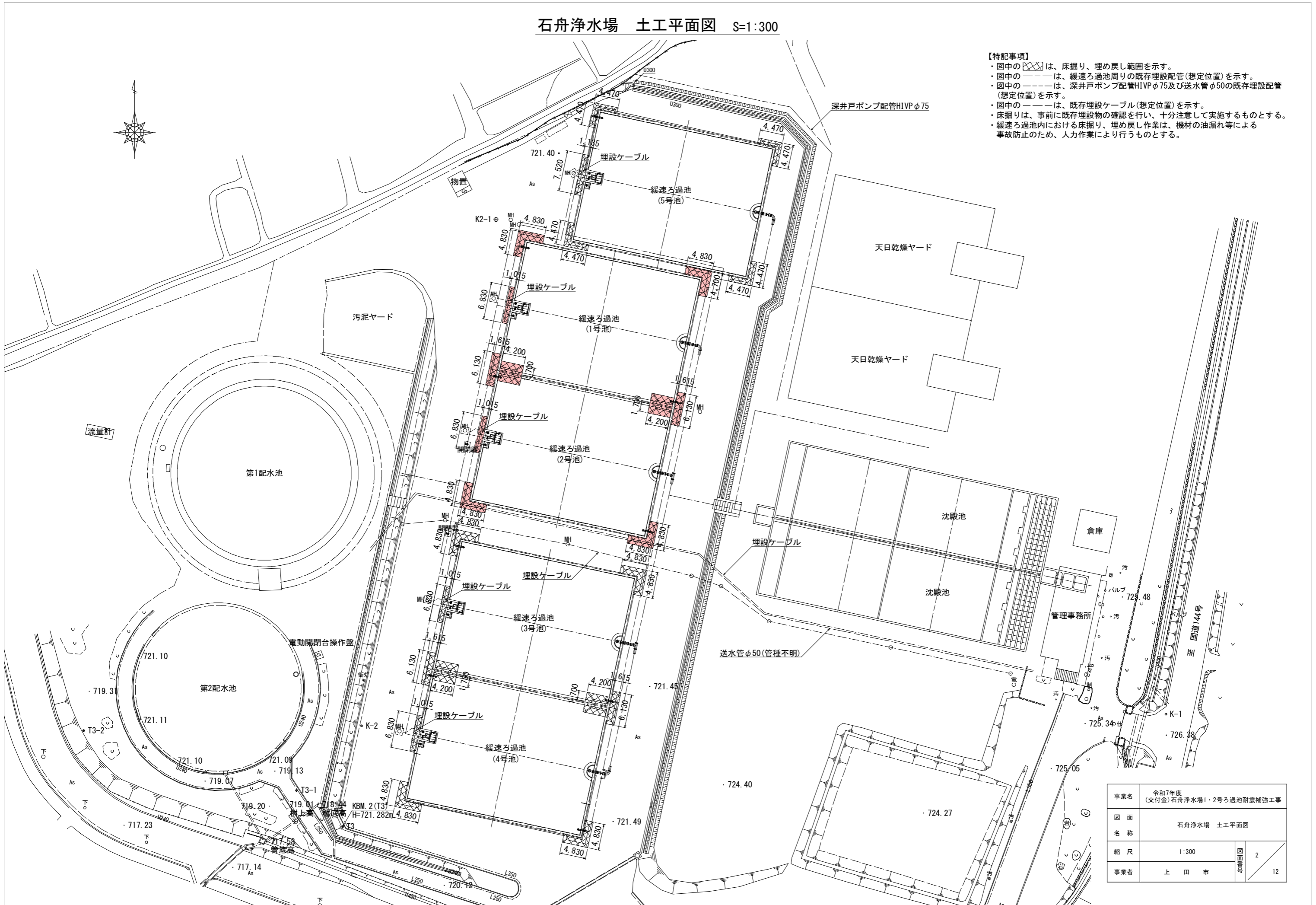


事業名	令和7年度 (交付金)石舟浄水場1・2号ろ過池耐震補強工事		
図面名称	石舟浄水場 現況平面図		
縮尺	1:500	図面番号	1
事業者	上田市		12

石舟浄水場 土工平面図 S=1:300

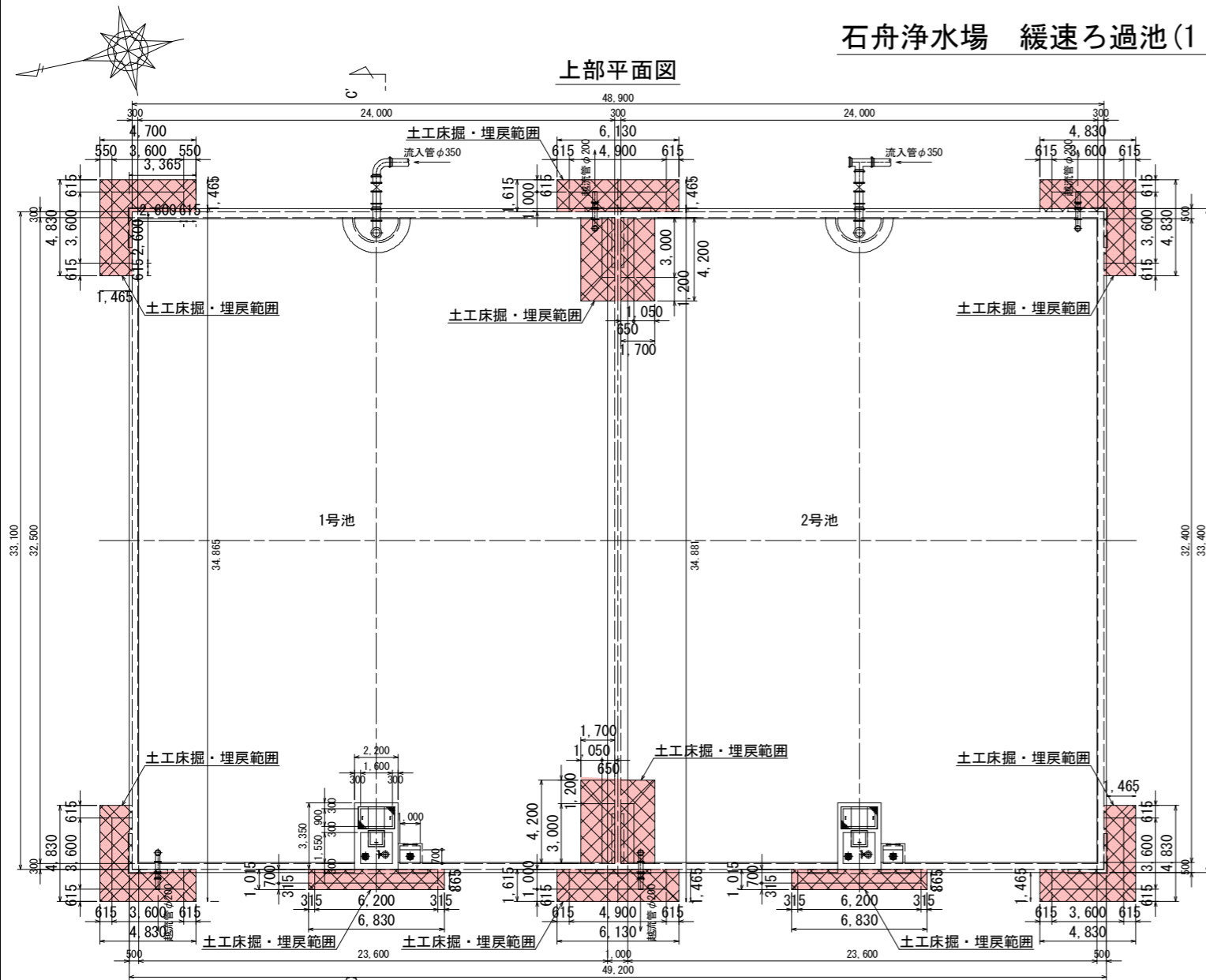
【特記事項】

- ・ 図中の  は、床掘り、埋め戻し範囲を示す。
- ・ 図中の  は、緩速ろ過池周りの既存埋設配管(想定位置)を示す。
- ・ 図中の  は、深井戸ポンプ配管H1VPφ75及び送水管φ50の既存埋設配管(想定位置)を示す。
- ・ 図中の  は、既存埋設ケーブル(想定位置)を示す。
- ・ 床掘りは、事前に既存埋設物の確認を行い、十分注意して実施するものとする。
- ・ 緩速ろ過池内における床掘り、埋め戻し作業は、機材の油漏れ等による事故防止のため、人力作業により行うものとする。

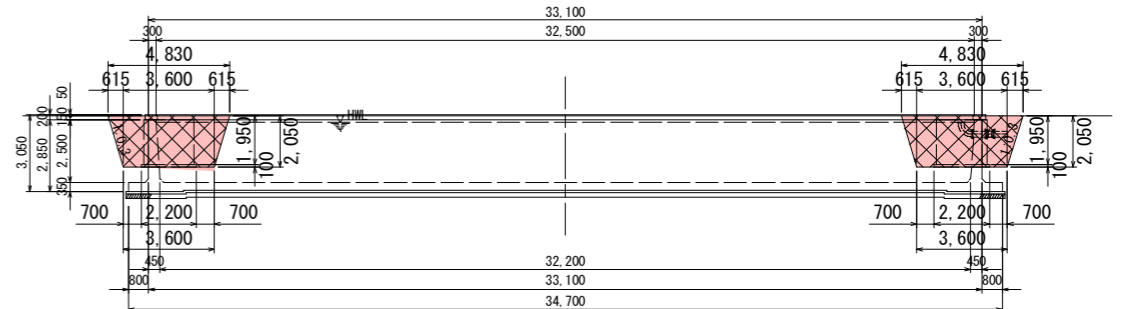


事業名	令和7年度 (交付金)石舟浄水場1・2号ろ過池耐震補強工事		
図面名称	石舟浄水場 土工平面図		
縮尺	1:300	図面番号	2
事業者	上田市	ページ	12

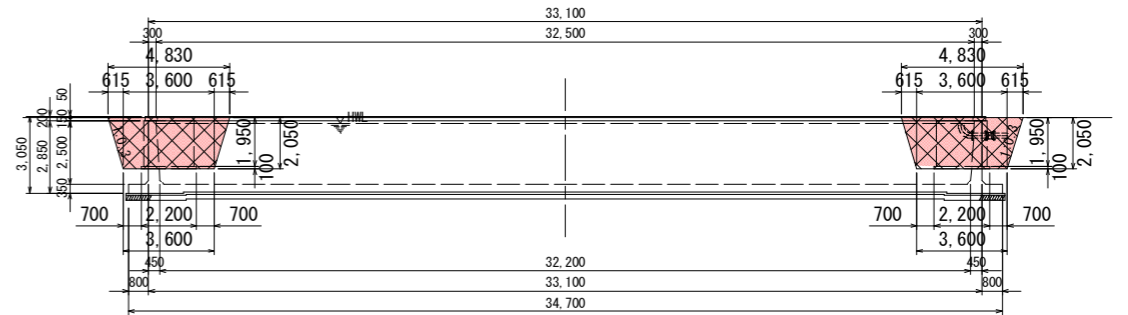
石舟浄水場 緩速ろ過池(1・2号池) 土工図 S=1:150



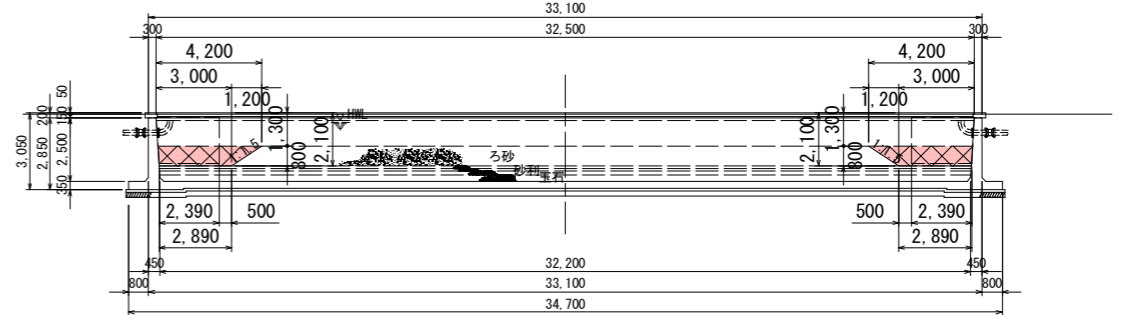
B面 側面図



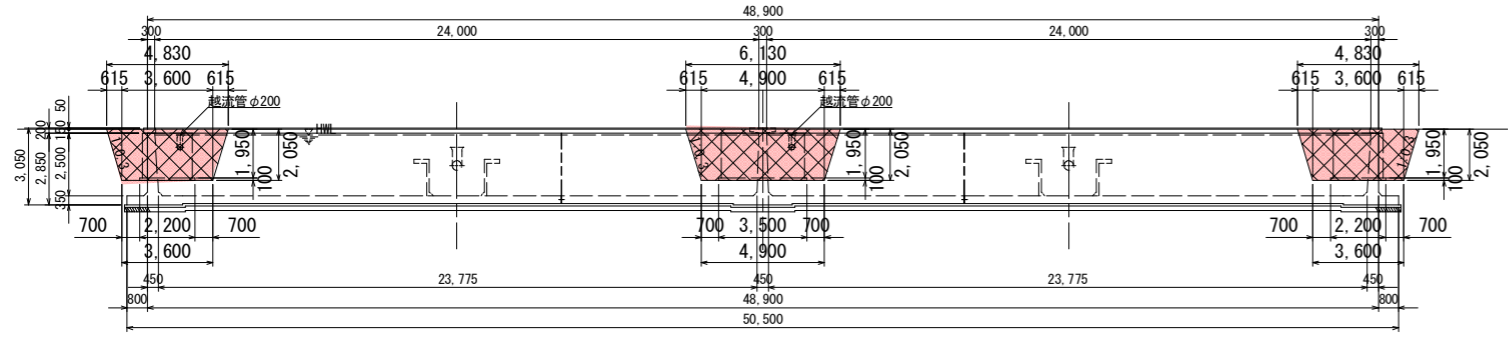
D面 側面図



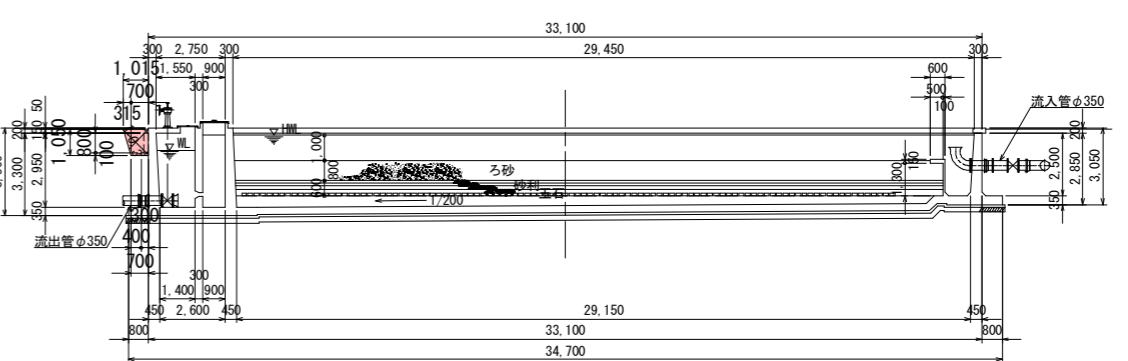
E面・F面 側面図



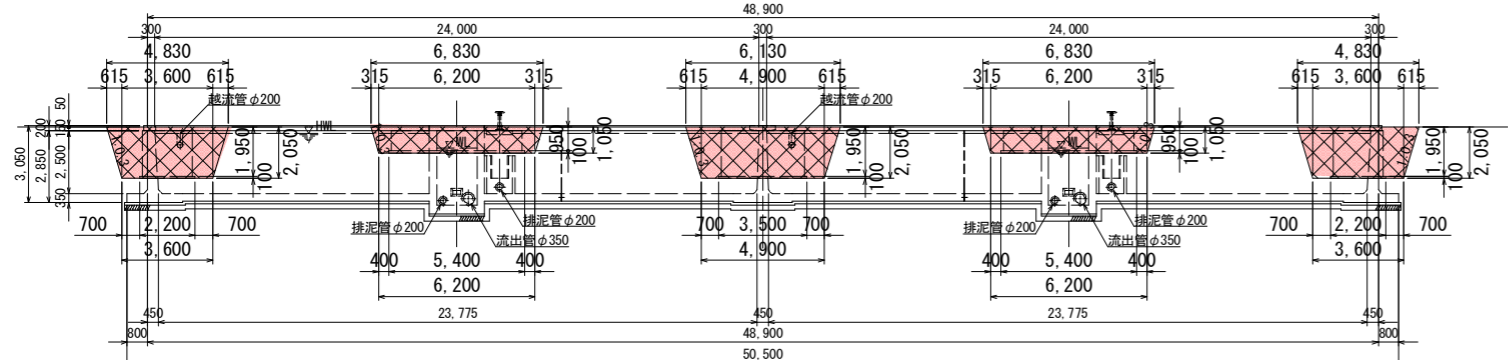
A面 側面図



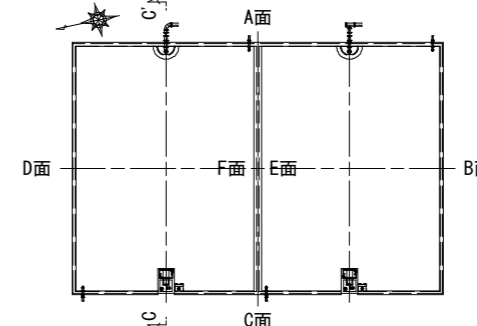
C-C' 断面図



C面 側面図





KEY PLAN S=NON



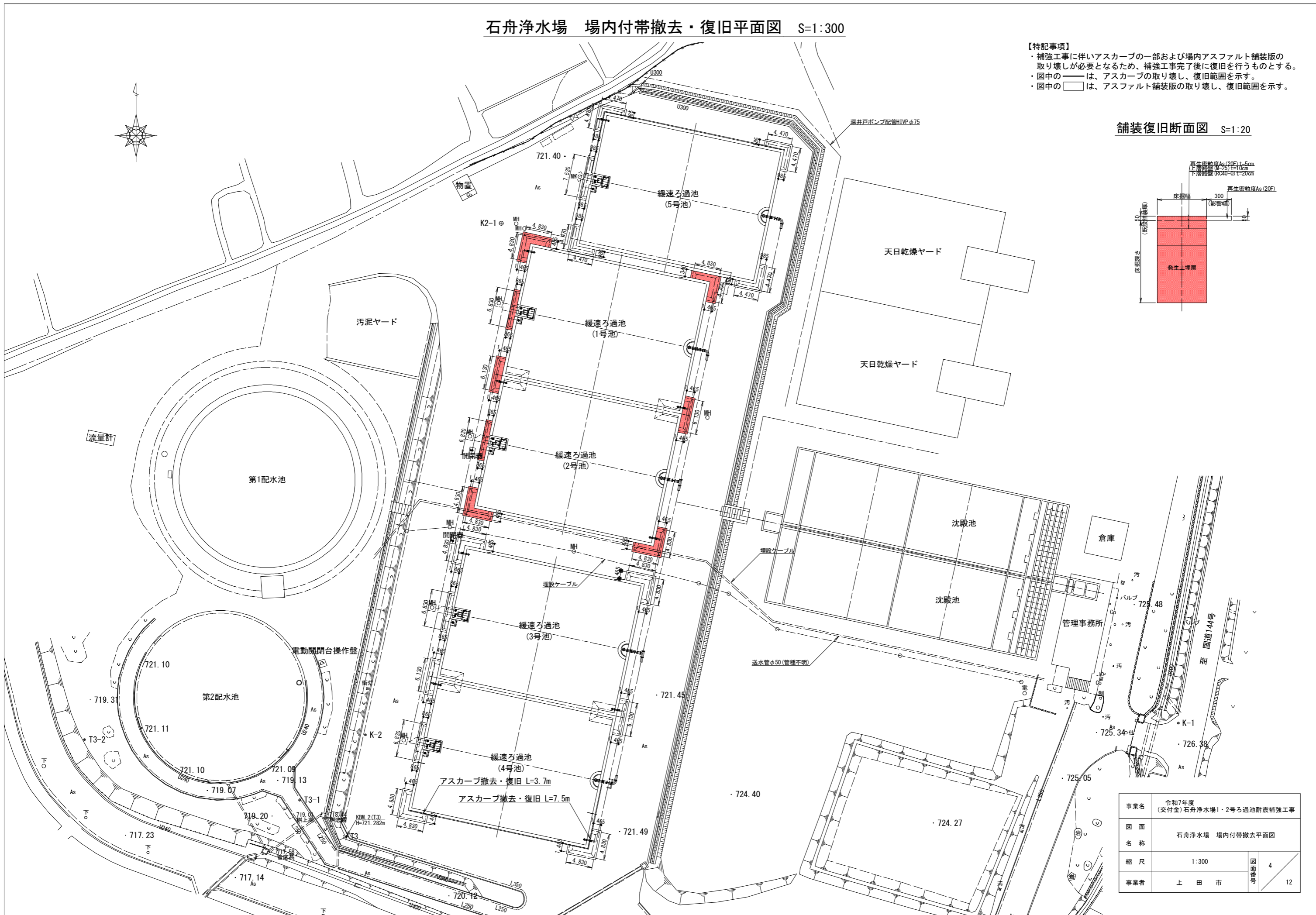
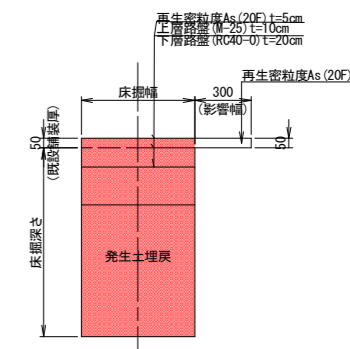
【特記事項】
 ・図中の は、床掘り、埋戻し範囲を示す。
 ・床掘りは、事前に既存埋設物の確認を行い、十分注意して実施するものとする。

事業名	令和7年度 (交付金)石舟浄水場1・2号ろ過池耐震補強工事		
図面名称	石舟浄水場 緩速ろ過池(1・2号池) 土工図		
縮尺	1:150	図号	3
事業者	上田市	ページ	12

石舟浄水場 場内付帯撤去・復旧平面図 S=1:300

- 【特記事項】
- ・補強工事に伴いアスカーブの一部および場内アスファルト舗装版の取り壊しが必要となるため、補強工事完了後に復旧を行うものとする。
 - ・図中の  は、アスカーブの取り壊し、復旧範囲を示す。
 - ・図中の  は、アスファルト舗装版の取り壊し、復旧範囲を示す。

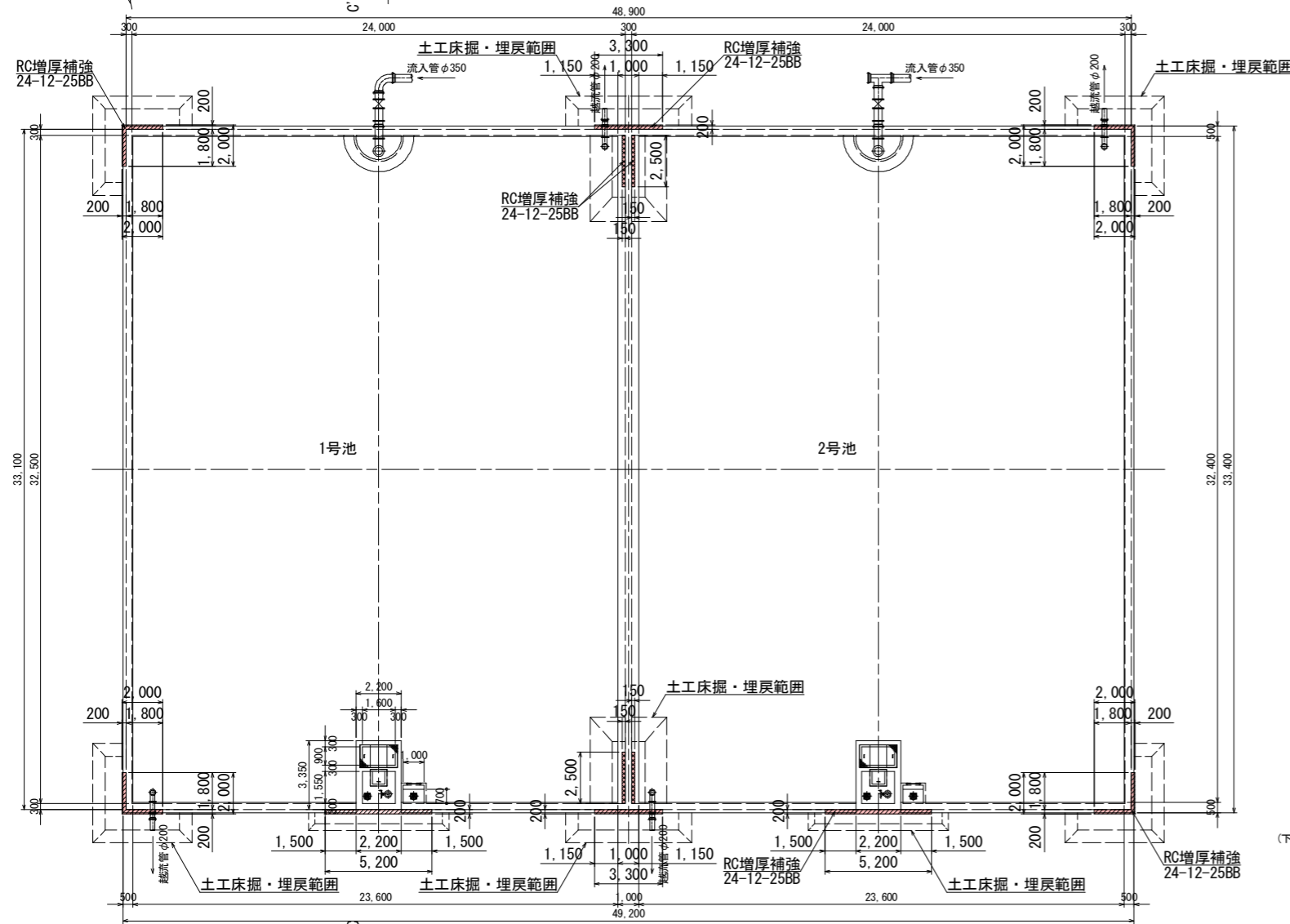
舗装復旧断面図 S=1:20



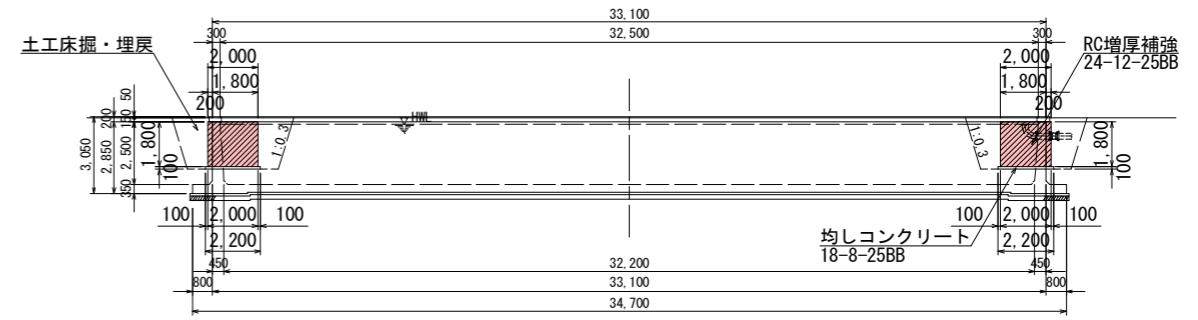
事業名	令和7年度 (交付金)石舟浄水場1・2号ろ過池耐震補強工事		
図面名称	石舟浄水場 場内付帯撤去平面図		
縮尺	1:300	図号	4
事業者	上田市	冊数	12

石舟浄水場 緩速ろ過池(1・2号池) 補強図 S=1:150

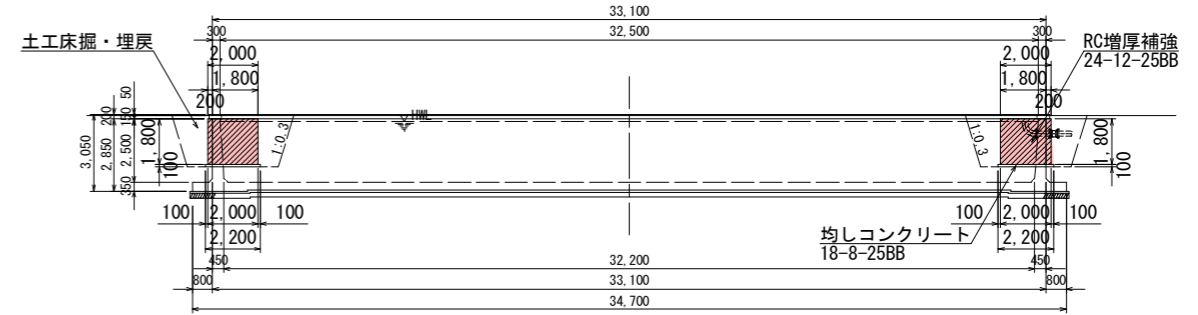
上部平面図



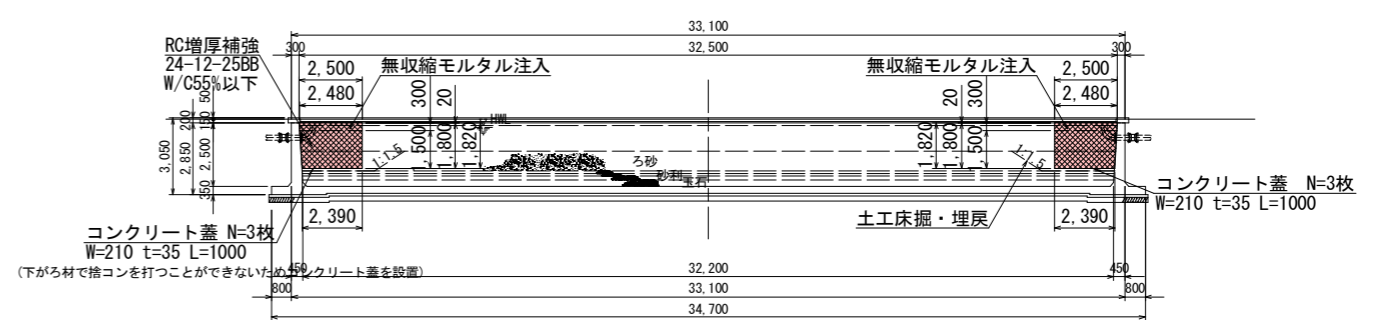
B面 側面図



D面 側面図

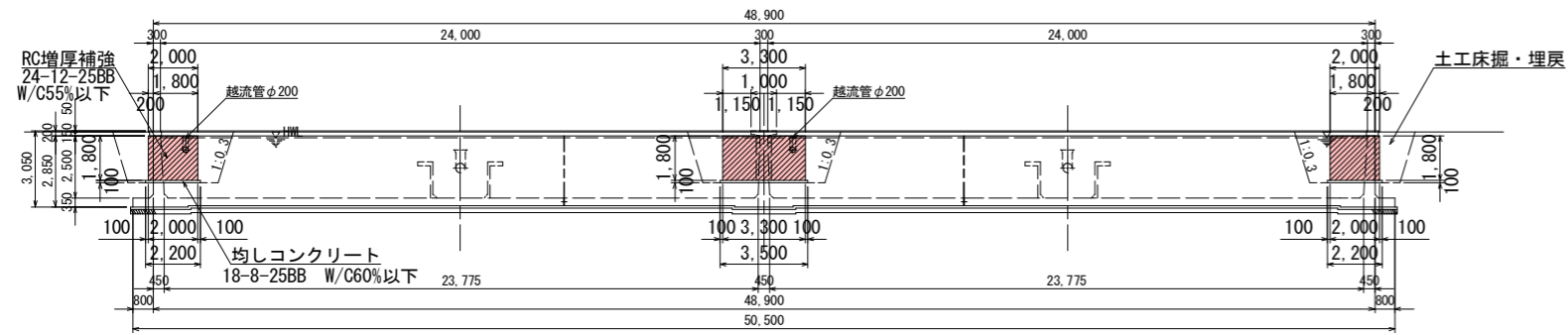


E面 側面図

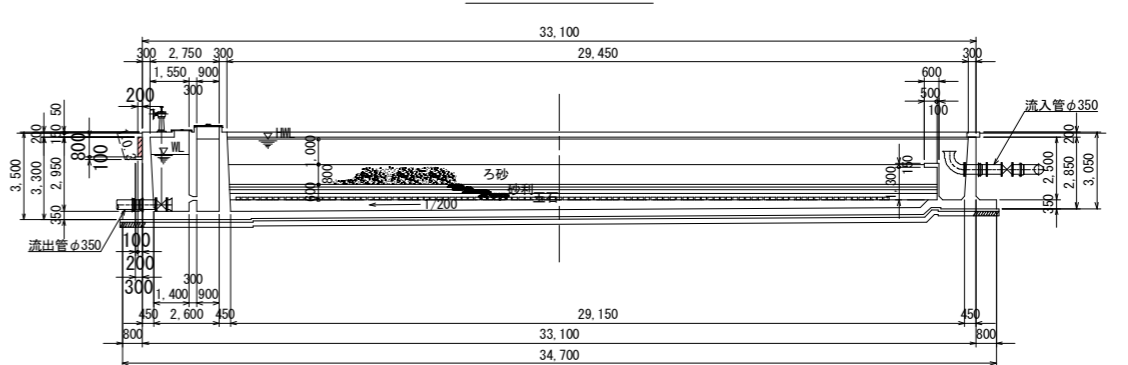


コンクリート蓋数量 3×2×2=12枚(1池につき6枚)

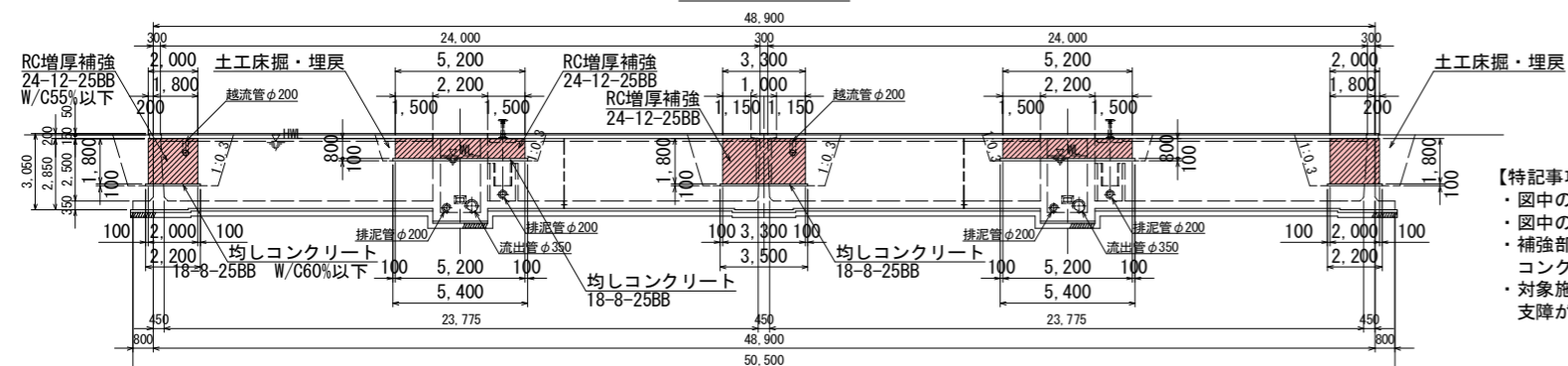
A面 側面図



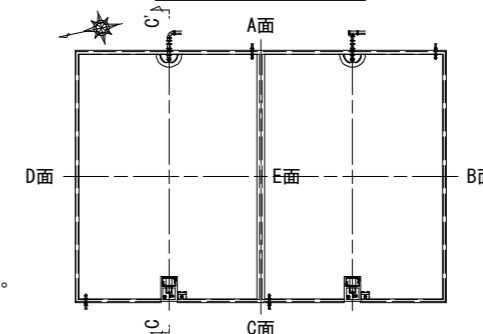
C-C' 断面図



C面 側面図



KEY PLAN S=NON



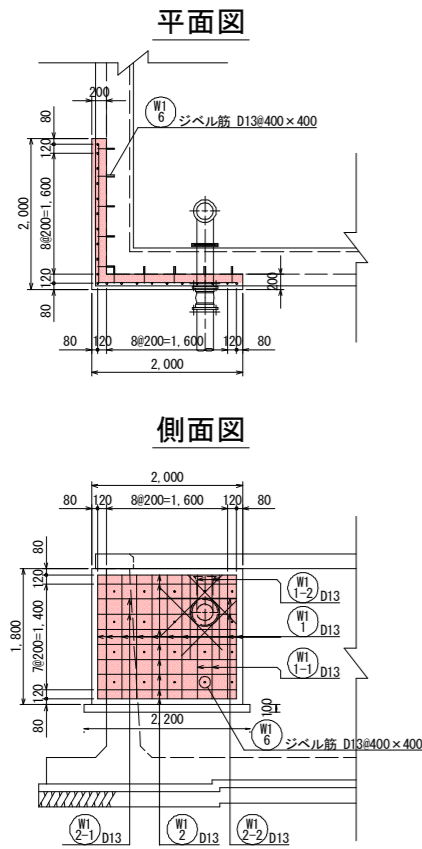
【特記事項】

- ・ 図中の [斜線] は、RC増厚(t=200mm)補強部材(範囲)を示す。
- ・ 図中の [点線] は、RC増厚(t=150mm)補強部材(範囲)を示す。
- ・ 補強部材の設置にあたり、事前に補強範囲の既存コンクリート面の目直しを行うものとする。
- ・ 対象施設は常時運用中のため、工事期間中に浄水機能に支障が生じないよう、十分注意して施工を行うものとする。

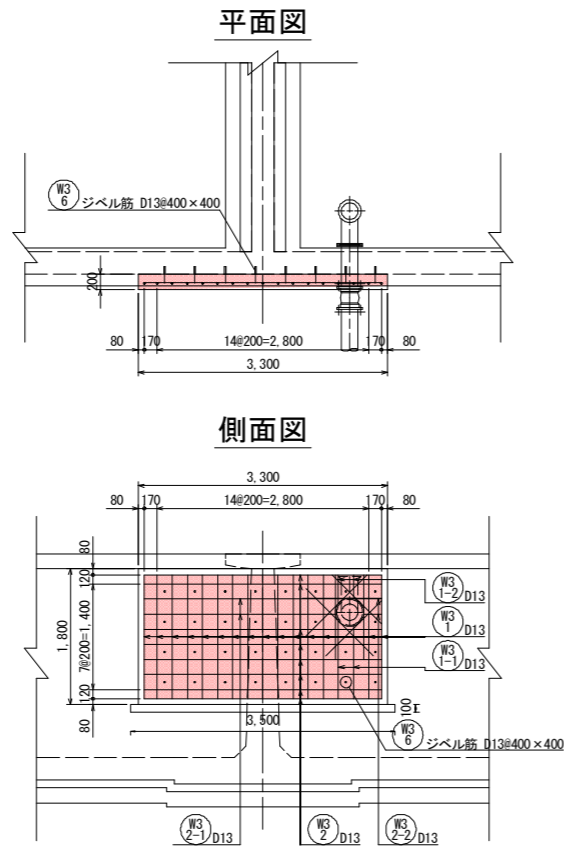
事業名	令和7年度(交付金)石舟浄水場1・2号ろ過池耐震補強工事		
図面名称	石舟浄水場 緩速ろ過池(1・2号池) 補強図		
縮尺	1:150	図面番号	5
事業者	上田市	ページ	12

石舟浄水場 緩速ろ過池(1・2号池) 補強配筋図(1) S=1:50

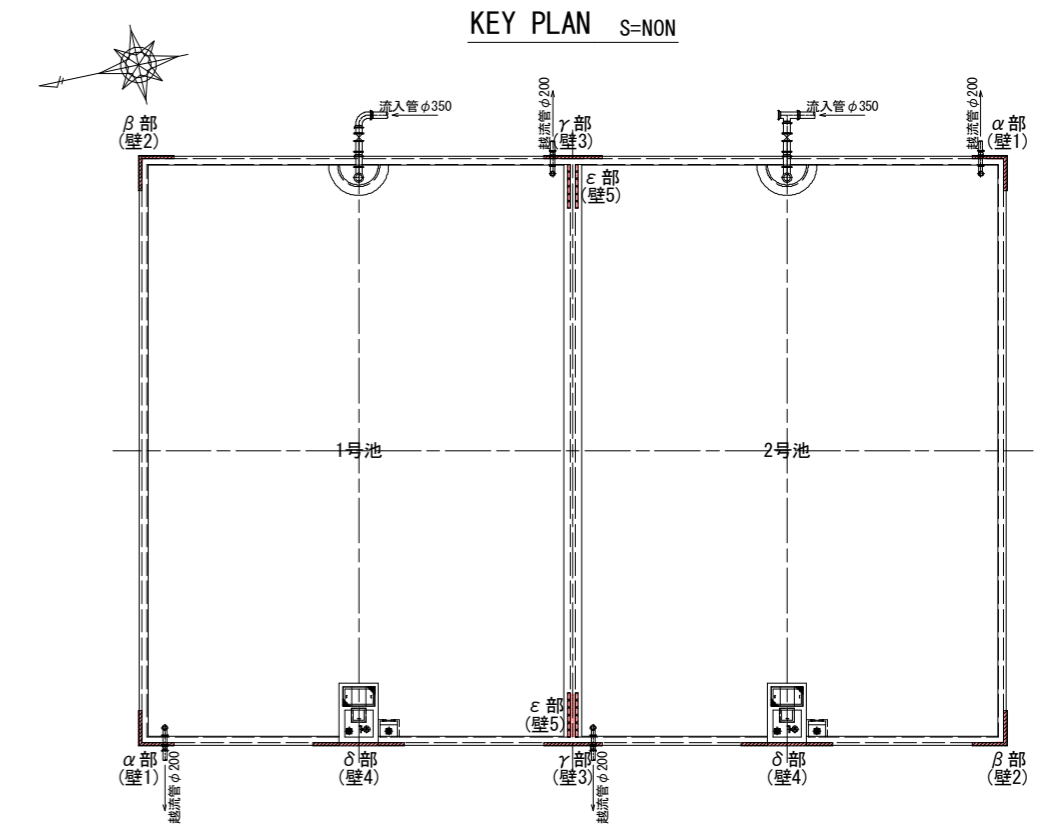
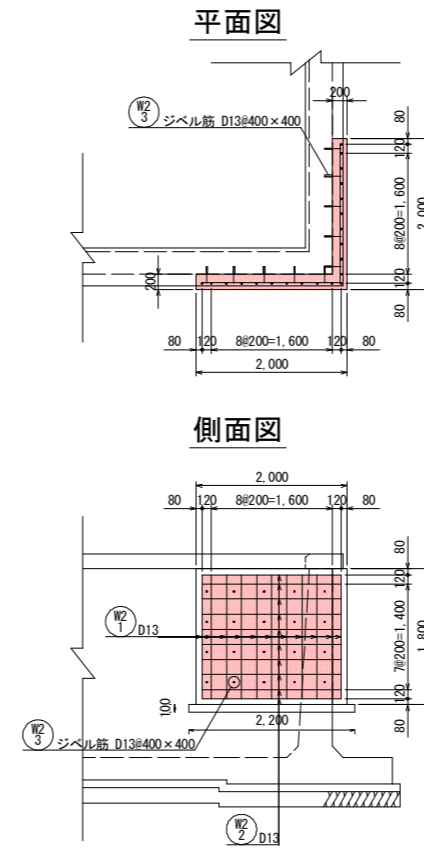
α部詳細図(2箇所)



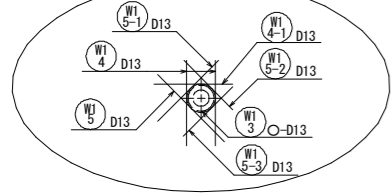
γ部詳細図(2箇所)



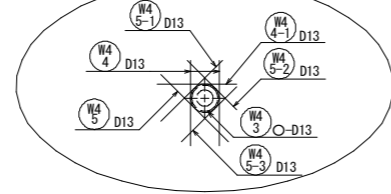
β部詳細図(2箇所)



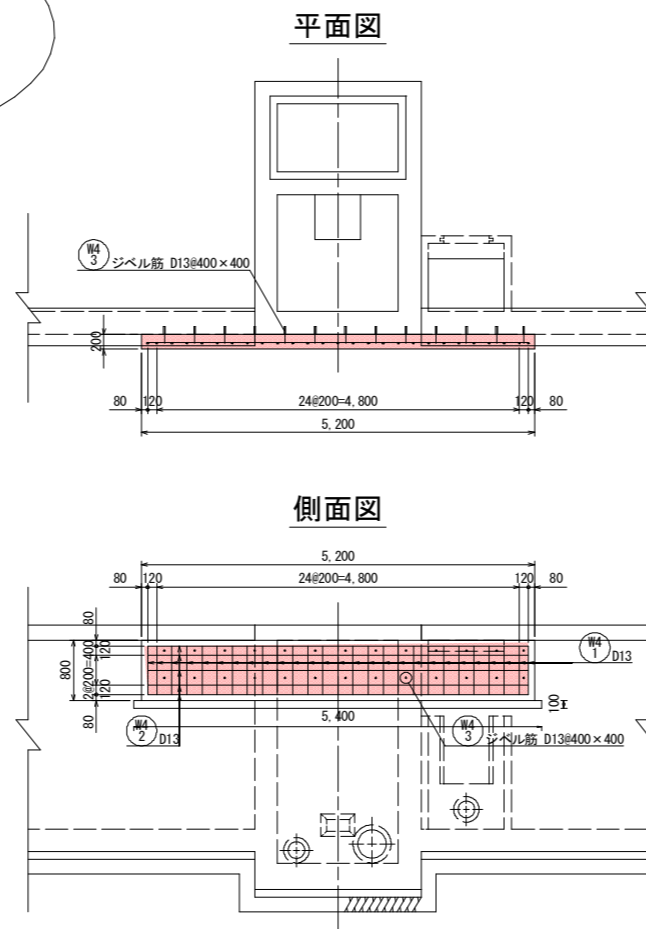
配管部



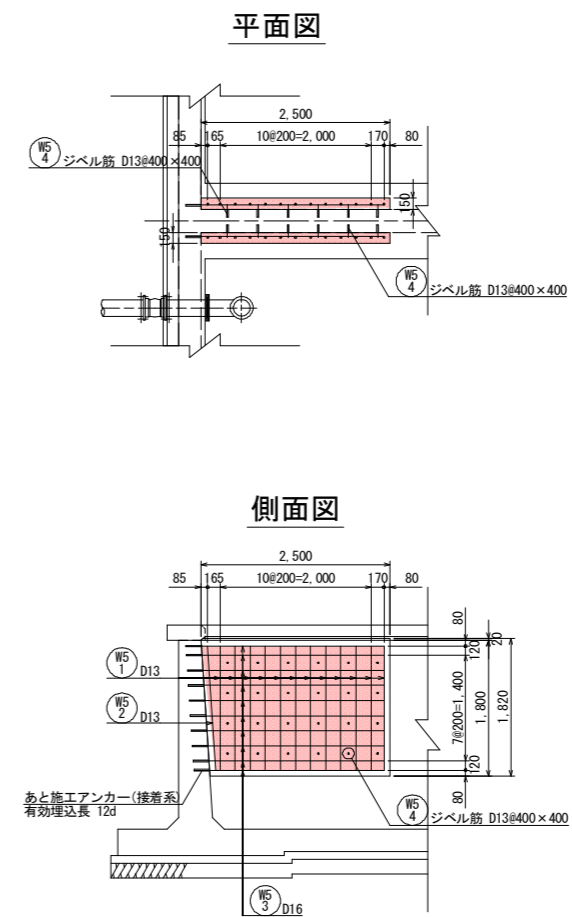
配管部



δ部詳細図(2箇所)



ε部詳細図(2箇所)



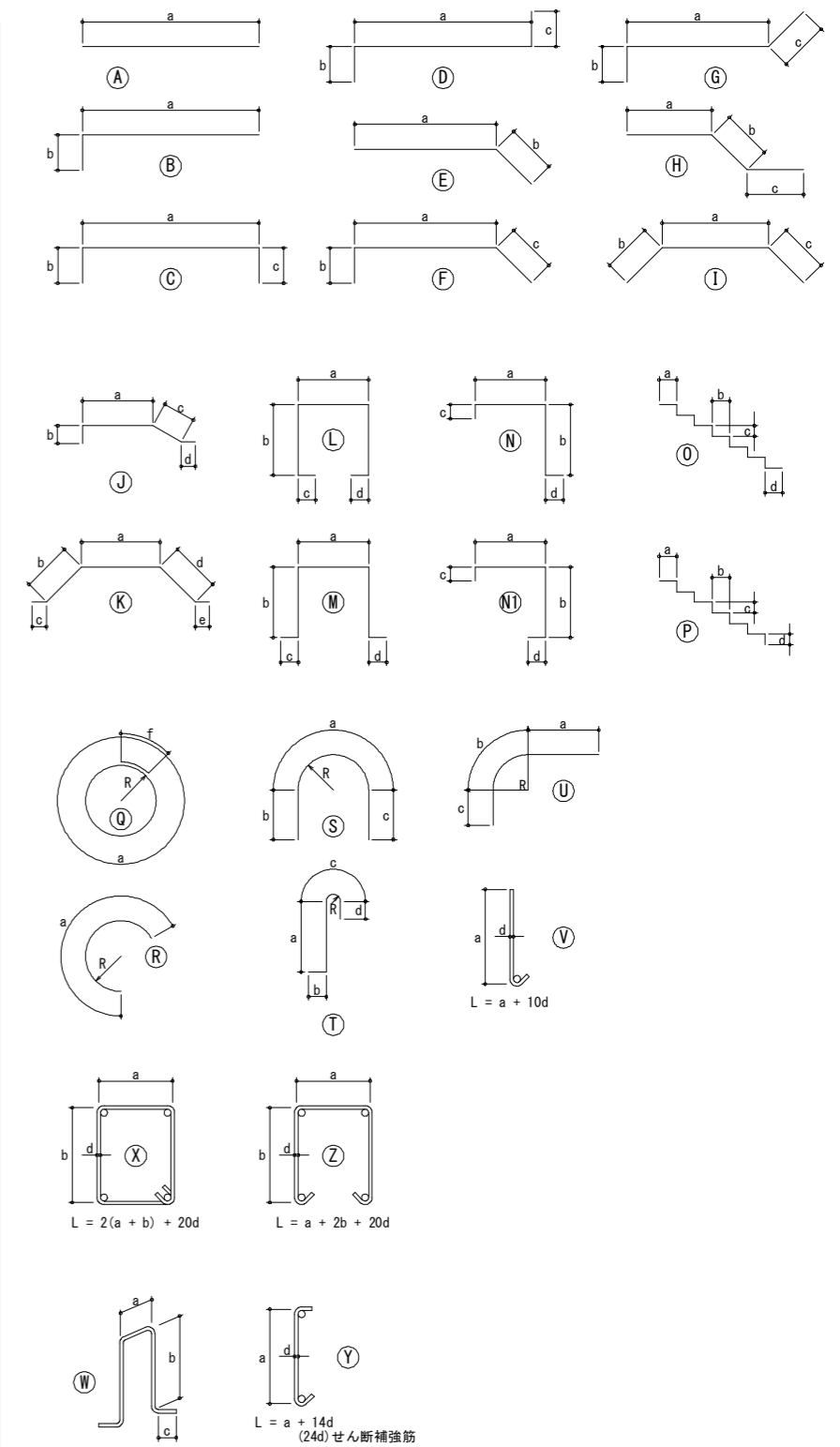
事業名	令和7年度 (交付金)石舟浄水場1・2号ろ過池耐震補強工事		
図面名称	石舟浄水場 緩速ろ過池(1・2号池) 補強配筋図(1)		
縮尺	1:50	図号	6
事業者	上田市	ページ	12

石舟浄水場 緩速ろ過池(1・2号池) 補強配筋図(2) S=NON

鉄筋加工表

名称	記号	形式	径 (mm)	本数 (本)	1本当り長さ (mm)	a (mm)	b (mm)	c (mm)	d (mm)	e (mm)	f (mm)	R (mm)	継ぎ手 (mm)
α部(壁1)	W1												
	1 (縦筋)	A	D13	38	1,640	1,640							
	1-1	A	D13	4	990	985							
	1-2	A	D13	4	340	335							
	2 (横筋)	B	D13	16	3,680	1,840	1,840						
	2-1	B	D13	4	3,140	1,840	1,292 (平均長)						
	2-2	A	D13	4	300	292 (平均長)							
	3 (リング筋)	Q	D13	2	1,320	1,182					130	188	
	4 (開口補強筋)	A	D13	4	1,130	1,123							
	4-1 (横)	A	D13	2	1,050	1,048							
	5 (斜)	A	D13	2	1,260	1,256							
	5-1 (斜)	A	D13	2	1,140	1,140							
	5-2 (斜)	A	D13	2	920	915							
	5-3 (斜)	A	D13	2	930	923							
	6 (ジベル筋)		D13	78									
β部(壁2)	W2												
	1 (縦筋)	A	D13	42	1,640	1,640							
	2 (横筋)	B	D13	20	3,680	1,840	1,840						
	3 (ジベル筋)		D13	80									
γ部(壁3)	W3												
	1 (縦筋)	A	D13	30	1,640	1,640							
	1-1	A	D13	4	1,000	997 (平均長)							
	1-2	A	D13	4	350	347 (平均長)							
	2 (横筋)	A	D13	16	3,140	3,140							
	2-1	A	D13	4	2,600	2,592 (平均長)							
	2-2	A	D13	4	300	292 (平均長)							
	3 (リング筋)	Q	D13	2	1,320	1,182					130	188	
	4 (開口補強筋)	A	D13	4	1,130	1,123							
	4-1 (横)	A	D13	2	1,050	1,048							
	5 (斜)	A	D13	2	1,260	1,256							
	5-1 (斜)	A	D13	2	1,140	1,140							
	5-2 (斜)	A	D13	2	920	915							
	5-3 (斜)	A	D13	2	1,040	1,032							
	6 (ジベル筋)		D13	62									

種別	径 (mm)	長さ (mm)	本数 (本)	単位重量 (kg/m)	1本当り重量 (kg)	重量 (kg)	適用
W1							
1	D13	1,640	38	0.995	1.632	62.016	
1-1	D13	990	4	0.995	0.985	3.940	
1-2	D13	340	4	0.995	0.338	1.352	
2	D13	3,680	16	0.995	3.662	58.592	
2-1	D13	3,140	4	0.995	3.124	12.496	
2-2	D13	300	4	0.995	0.299	1.196	
3	D13	1,320	2	0.995	1.313	2.626	
4	D13	1,130	4	0.995	1.124	4.496	
4-1	D13	1,050	2	0.995	1.045	2.090	
5	D13	1,260	2	0.995	1.254	2.508	
5-1	D13	1,140	2	0.995	1.134	2.268	
5-2	D13	920	2	0.995	0.915	1.830	
5-3	D13	930	2	0.995	0.925	1.850	
W2							
1	D13	1,640	42	0.995	1.632	68.544	
2	D13	3,680	20	0.995	3.662	73.240	
W3							
1	D13	1,640	30	0.995	1.632	48.960	
1-1	D13	1,000	4	0.995	0.995	3.980	
1-2	D13	350	4	0.995	0.348	1.392	
2	D13	3,140	16	0.995	3.124	49.984	
2-1	D13	2,600	4	0.995	2.587	10.348	
2-2	D13	300	4	0.995	0.299	1.196	
3	D13	1,320	2	0.995	1.313	2.626	
4	D13	1,130	4	0.995	1.124	4.496	
4-1	D13	1,050	2	0.995	1.045	2.090	
5	D13	1,260	2	0.995	1.254	2.508	
5-1	D13	1,140	2	0.995	1.134	2.268	
5-2	D13	920	2	0.995	0.915	1.830	
5-3	D13	1,040	2	0.995	1.035	2.070	



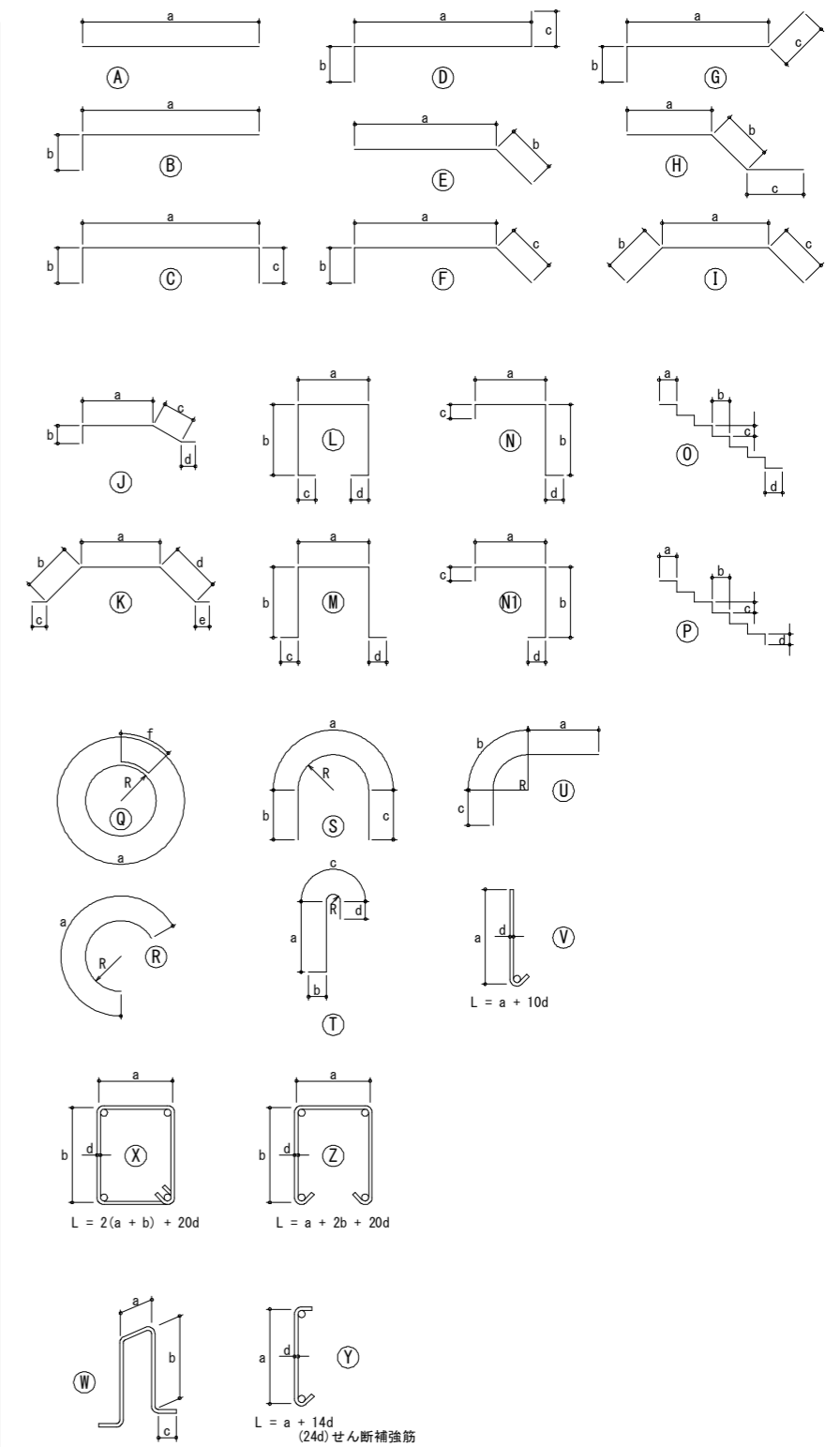
事業名	令和7年度 (交付金)石舟浄水場1・2号ろ過池耐震補強工事		
図面名称	石舟浄水場 緩速ろ過池(1・2号池) 補強配筋図(2)		
縮尺	NON	図面番号	7
事業者	上田市		12

石舟浄水場 緩速ろ過池(1・2号池) 補強配筋図(3) S=NON

鉄筋加工表

名称	記号	形式	径 (mm)	本数 (本)	1本当り長さ (mm)	a (mm)	b (mm)	c (mm)	d (mm)	e (mm)	f (mm)	R (mm)	継ぎ手 (mm)
δ部(壁4)	W4												
	1 (縦筋)	A	D13	54	640	640							
	2 (横筋)	A	D13	10	5,040	5,040							
	3 (シベル筋)		D13	52									
ε部(壁5)	W5												
	1 (縦筋)	A	D13	48	1,640	1,640							
	2 (縦筋)	A	D13	4	1,650	1,643							
	3 (横筋)	A	D16	40	2,570	2,570 (平均長)							
	4 (シベル筋)		D13	96									

種別	径 (mm)	長さ (mm)	本数 (本)	単位重量 (kg/m)	1本当り重量 (kg)	重量 (kg)	適用
W4							
1	D13	640	54	0.995	0.637	34.398	
2	D13	5,040	10	0.995	5.015	50.150	
W5							
1	D13	1,640	48	0.995	1.632	78.336	
2	D13	1,650	4	0.995	1.642	6.568	
3	D16	2,570	40	1.560	4.009	160.036	
			SD345				
			D16		160.036	kg	
			D13		602.244	kg	
α部(壁1) ~ δ部(壁4)			計		762.280	kg	



事業名	令和7年度 (交付金) 石舟浄水場1・2号ろ過池耐震補強工事		
図面名称	石舟浄水場 緩速ろ過池(1・2号池) 補強配筋図(3)		
縮尺	NON	図面番号	8
事業者	上田市		12

構造細目共通図(土木構造物)

< 令和4年版 >

1 特記事項

1.1 適用範囲

- (1) 本構造細目共通図は、上水道施設における土木構造物に適用する。
- (2) 図面及び構造細目共通図に記載されていない事項は、下記に基づくものとし、これらに相違がある場合は監督職員に確認し指示を受ける。

1) 土木工事特記仕様書	全国上下水道コンサルタント協会	(別紙による。)
2) 土木工事共通仕様書	国土交通省関東地方整備局	(令和7年版)
3) コンクリート標準示方書・施工編	土木学会	(2023年版)
4) コンクリート標準示方書・設計編	土木学会	(2022年版)

- (3) 項目は、○印のついたものを適用する。○印のない場合は、※印のあるものを適用する。○印と※印のある場合は、共に適用する。

1.2 鉄筋の仕様及び継手

鉄筋の種類及び継手は1.1表による。

種類	種別	径
鉄筋の種類	※SD345 ・SD390 ・SD490	※D13以上
	鉄筋の継手	
鉄筋の継手	重ね継手	下記以外
	ガス圧接	※D19以上の柱・梁主鉄筋 ・D16以上の増設端の床・壁鉄筋
	機械式継手	・図面による

1.3 コンクリートの仕様

コンクリートは1.2表による。

分類	コンクリート種別	設計基準強度 (N/mm ²)	スランプ (cm)	セメントの種類
鉄筋コンクリート	※普通コンクリート	※24 ○30	※12	※高炉セメントB ・普通ポルトランドセメント ・低熱ポルトランドセメント
	無筋コンクリート	※普通コンクリート	※12 ○8	※高炉セメントB ・普通ポルトランドセメント

注1: 無筋コンクリートには均しコンクリートを含む。

1.4 砕石基礎工及び均しコンクリート工

砕石基礎工及び均しコンクリートは1.3表による。

種別	厚さ (mm)
砂利または砕石	※200
均しコンクリート	※100

2 共通事項

2.1 用語の定義

本構造細目共通図中で使用する用語の定義は、2.1表のとおりとする。

用語	説明
主鉄筋	各種限界状態を満足させるために計算し、配置される鉄筋
配力鉄筋	応力を分散させる目的で、通常、主鉄筋に対して直角(スラブ、壁部材の場合)に配置される鉄筋
せん断補強鉄筋	せん断力に抵抗するように配置される主鉄筋を拘束する鉄筋
幅止め鉄筋	はりの水平用心鉄筋、スラブ、壁の主鉄筋あるいは配力鉄筋の厚み方向の間隔を確保するための鉄筋

2.2 一般注意事項

設計図は、監督職員の承諾を得なければ変更してはならない。変更の必要を生じた場合は、監督職員と協議すること。

3 鉄筋の折曲げ加工

鉄筋の折曲げ加工は、3.1表及び3.2表を標準とする。

- (1) Dは、折曲げ内法直径を示す。
- (2) dは、鉄筋直径(呼び名)を示す。

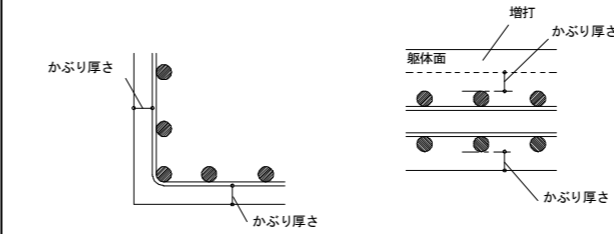
位置	曲げ角度	折曲げ図及び折曲げ後の余長	曲げ内法直径	使用箇所
末端部	180°	4d以上かつ60mm以上	5d以上	定着末端部
	135°	6d以上かつ60mm以上	5d以上	スターラップ、帯鉄筋、フープ筋等
	90°	12d以上	5d以上	幅止め鉄筋 床版 底版
90° 135°	4d以上	5d以上		
中間部	90°	100mm	5d以上	幅止め鉄筋 床版 底版
	θ < 90°	直交方向に90°	10d以上	

位置	曲げ角度	折曲げ図	曲げ内法直径	使用箇所
最上階	90°		20d以上	ラーメン隅角部
一般階	90°		5d以上	

4 鉄筋のかぶり及び間隔

4.1 かぶり厚さ

かぶり厚さとは、一番外側の鉄筋(幅止め筋を除く)の外側から躯体面までの距離(4.1図)をいう。
鉄筋組立後のかぶり厚さは、最小かぶり厚さ以上を確保し、最小かぶり厚に許容施工誤差10mmを加えた厚さ以内に納めるものとする。



4.1図 鉄筋のかぶり厚さ

4.2 最小かぶり厚さ

最小かぶり厚さは、4.1表による。
床版、梁、基礎及び擁壁で、直接土に接する部分のかぶり厚さには、均しコンクリートの厚さを含まない。

4.1表 鉄筋の最小かぶり厚さ (mm)

※ 通常の施工の場合

環境	部位	床版・スラブ・梁	柱・壁	底版・フーチング
大気中		50	50	-
	水中・土中等	50	70	70

・ 塩害対策地域の施工の場合

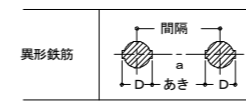
対策区分	環境	部位	床版・スラブ・梁	柱・壁	底版・フーチング
I	大気中		70	70	-
		水中・土中等			70
II, III	大気中		50	70	-
		水中・土中等			70

- 1: 部位により最小かぶり厚さの判断が困難な場合は、監督職員の指示を得る。
- 2: 杭基礎の底版・フーチング下端筋のかぶり厚さは、7.杭基礎の補強を参照する。

(注) 梁: 大梁、小梁、基礎梁、片持梁をいう。

4.3 鉄筋相互のあき

鉄筋相互のあき(a)は、下記(1)。(2)。(3)の最大値以上とする。
なお、柱部材を設ける場合は、構造細目共通図(複合構造物)(2)を参照すること。
(1) 粗骨材の最大寸法の4/3倍
(2) 最小のあき20mm
(3) 異形鉄筋の直径(呼び名)



(注) D: 鉄筋の最大径 d: 鉄筋直径(呼び名)

4.2図 鉄筋のあき

5 鉄筋の継手及び定着

5.1 鉄筋の継手及び定着

5.1.1 継手長さ及び定着長の基本

- (1) 鉄筋の重ね継手長さは5.1表、定着の長さは、5.2表による。
 - ① 本表の適用は、鉄筋種類SD345、鉄筋径D13~D32とする。
 - ② 定着長は折曲げ加工後の直線部分で確保する。
 - ③ 壁、床版、底版の主鉄筋の中心間隔が100mm未満の場合は、別途図示による。

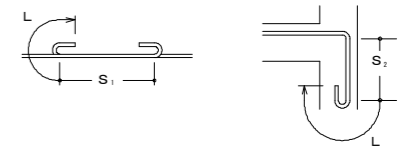
5.1表 鉄筋の重ね継手長さ

鉄筋の種類	鉄筋径	設計基準強度	S ₁ :重ね継手長			
			鉄筋中心間隔200mm以上	100mm以上200mm未満	フックなし	フックあり
SD345	D16以下	24以上 27未満 (N/mm ²)	40・d	30・d	50・d	40・d
	D19 ~D22		45・d	35・d	60・d	50・d
	D25以上		50・d	40・d	65・d	55・d

5.2表 鉄筋の定着の長さ

鉄筋の種類	鉄筋径	設計基準強度	S ₂ :定着長	
			フックなし	フックあり
SD345	D16以下	24以上 27未満 (N/mm ²)	40・d	30・d
	D19 ~D22		50・d	40・d
	D25以上		60・d	50・d

- (2) 径が異なる鉄筋の継手長さは、細い鉄筋の径による。
- (3) 継手は相互にずらすことを原則とする。
- (4) フックのある場合の継手長さ及び定着長には、5.1図に示すようにフック部分Lを含まない。



5.1図 フックのある場合の定着及び継手要領

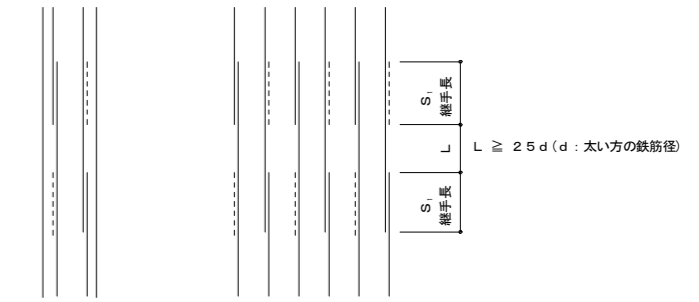
5.1.2 継手の特記事項

- (1) 継手は極力応力の小さい位置に設ける。
- (2) 異なる径の鉄筋をガス圧接する場合、鉄筋径の差が5mmを超える圧接をしてはならない。

5.2 隣り合う継手の位置

5.2.1 鉄筋の重ね継手

- (1) 同一断面での継手は軸方向に相互にずらす。
- (2) ずらす距離(L)は、太い方の鉄筋径の2.5倍以上とする。
- (3) 前記(1)を確保できない場合は、監督職員の承諾を得て、ガス圧接継手又は機械式継手工法を採用することができる。
- (4) 継手部の鉄筋のあきは、粗骨材の最大寸法以上とする。



※破線部は、同一平面にある鉄筋の上端と下端とで重ね継手位置を交互にすること、並びに同一断面にある鉄筋では、奥行き方向に重ね継手位置を交互にすることをそれぞれ示す。

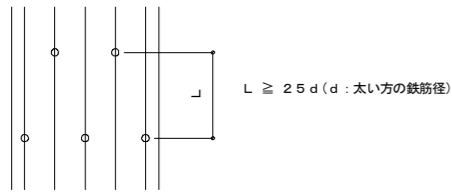
5.2図 重ね継手工法

事業名	令和7年度(交付金)石舟浄水場1・2号ろ過池耐震補強工事		
図面名称	構造細目共通図(土木構造物)(1)		
縮尺	NON	図面番号	9
事業者	上田市		12

5. 2. 2 鉄筋のガス圧接および機械式継手

鉄筋のガス圧接継手及び機械式継手は土木学会「鉄筋定着・継手指針[2020年版]」(土木学会)による。機械式継手は、ねじふし鉄筋継手工法とする。また、ねじふし鉄筋継手工法以外の機械式継手を採用する場合は、監督職員の承諾を得ること。

- (1) 同一断面での継手は軸方向に相互にずらす。
- (2) ガス圧接の場合のずらす距離(L)は、太い方の鉄筋径の2.5倍以上とする。
- (3) 機械式継手のずらす距離(L)は、太い方の鉄筋径の2.5倍以上とする。
- (4) 機械式継手をイモ継ぎ部に使用する場合は、継手性能はSA級かつ継手信頼度をI種とする。



5. 3 図 ガス圧接継手工法及び機械式継手工法

6 配筋要領

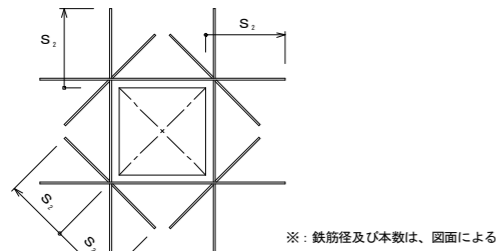
6. 1 壁

6. 1. 1 一般事項

- (1) 壁の鉄筋の継手及び定着は、5. 1項及び5. 2項に基づくものとする。
- (2) 幅止め鉄筋の鉄筋径及び間隔は、図面による。

6. 1. 2 壁開口部の補強

- (1) 壁開口部の補強は、図面による。補強鉄筋の長さ及び位置は、6. 1図を標準とする。

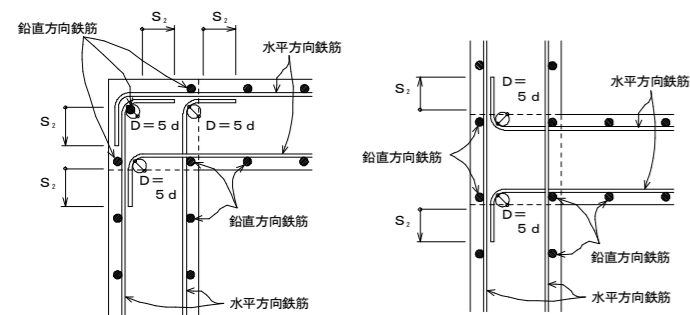


6. 1 図 壁開口部の補強要領

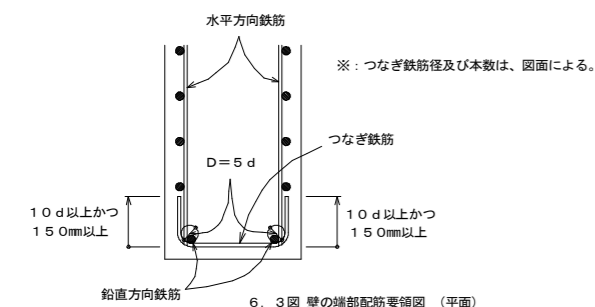
- (2) 開口寸法が配筋間隔以下で、鉄筋を緩やかに曲げることにより、開口部を避けて配筋出来る場合は、補強鉄筋を省略することができる。

6. 1. 3 壁と壁の交差部及び端部

- (1) 壁と壁の交差部の鉄筋加工要領は、6. 2図による。
- (2) 壁の端部の鉄筋加工要領は、6. 3図による。



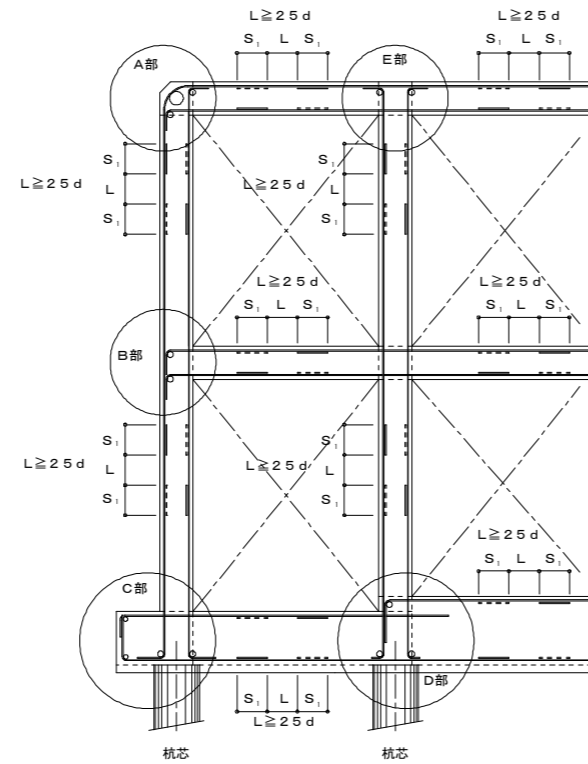
6. 2 図 壁と壁の交差部配筋要領図 (平面)



6. 3 図 壁の端部配筋要領図 (平面)

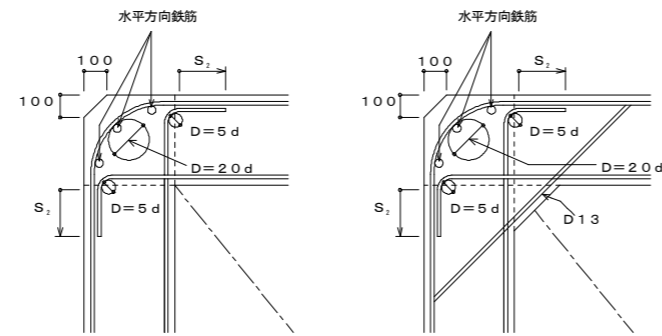
6. 1. 4 壁と床版・底版の交差部

- (1) 壁と床版の交差部は、6. 4図及び6. 5図による。



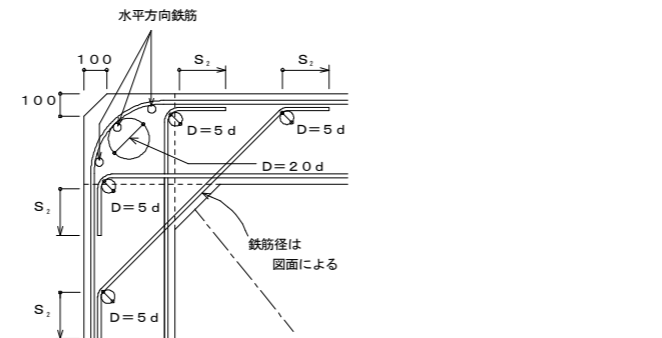
注1: 重ね継手は、応力の小さい位置とする。

6. 4 図 壁と床版・底版の交差部配筋要領図 (断面)



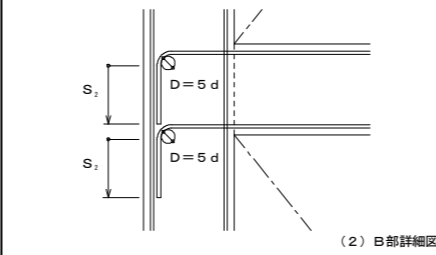
A1. ハンチなし

A2. ハンチあり、定着なし

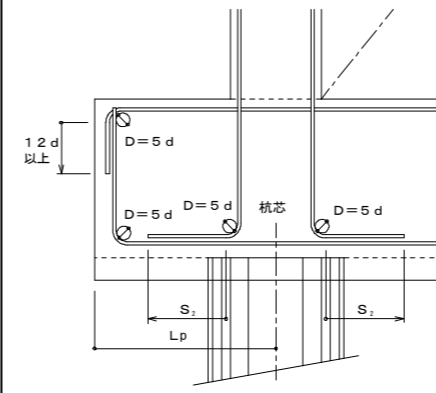


A3. ハンチあり、定着あり

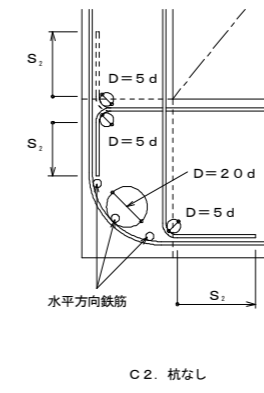
(1) A部詳細図



(2) B部詳細図

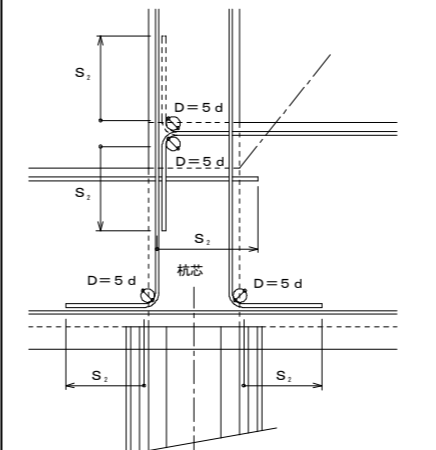


C1. 杭あり



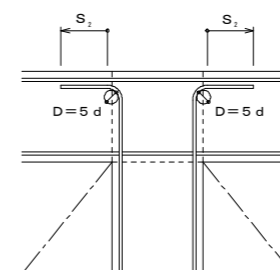
C2. 杭なし

(3) C部詳細図



※配筋要領は杭あり、杭なしとも同一

(4) D部詳細図



(5) E部詳細図

凡例

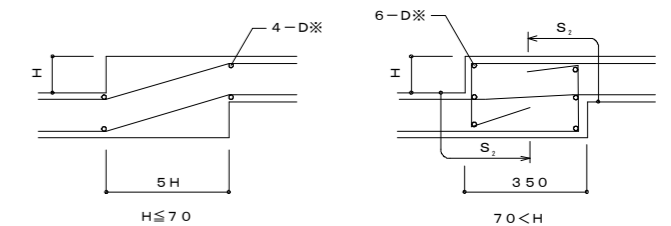
- ・D: 鉄筋の曲げ内法直径
 - ・d: 鉄筋直径(呼び名)
 - ・S₁, S₂: 5. 1表のとおりであり、折曲げ加工後の直線長で確保する長さ
- 注1: A部以外においてハンチを設ける場合は、ハンチ筋についてA部に準じた配筋とする。
 注2: ハンチを設ける場合の配筋は、図面に指示がない場合はA2を、図面に指示がある場合はA3を適用する。
 注3: C部の杭なしの場合、及びD部において、底版上端筋の曲げ定着は下方に取ることを原則とするが、部材厚等の関係で直線状にS₁定着長が確保できない場合は、上方に取ることでよいものとする。
 注4: L_pは、場所打杭・打ち込み杭・埋め込み杭は1.0D(Dは杭径)以上とする。

6. 5 図 壁と床版・底版の交差部配筋詳細図 (断面)

6. 2 床

6. 2. 1 段差床版の補強

- (1) 同一床版に段差がある場合、6. 6図の補強を行う。

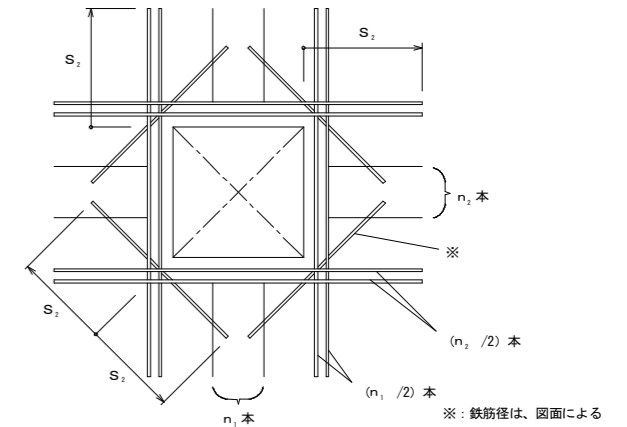


※: 鉄筋径は、図面による。

6. 6 図 同一床版に段差がある場合の補強要領図 (断面)

6. 2. 2 床版開口部の補強

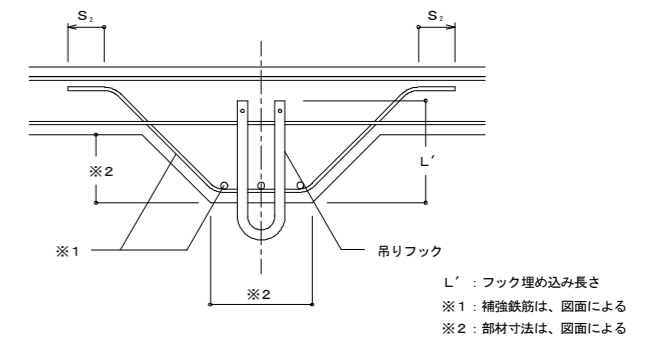
- (1) 床版開口部の補強は開口によって切られる鉄筋と同量の鉄筋で周囲を補強し、隅角部には斜め方向に主鉄筋径以上の鉄筋を上下筋の内側に配筋する。(6. 7図)



6. 7 図 床版開口部の補強要領図 (平面)

- (2) 開口寸法が配筋間隔以下で、鉄筋を緩やかに曲げることにより開口部を避けて配筋できる場合は、補強鉄筋を省略することができる。

6. 2. 3 吊りフックが取り付け場合の補強



6. 8 図 吊りフック取り付け部補強要領図 (断面)

事業名	令和7年度 (交付金)石舟浄水場1・2号ろ過池耐震補強工事		
図面名称	構造細目共通図(土木構造物)(2)		
縮尺	NON	図面番号	10
事業者	上田市		12

9 耐震補強

9.1 適用範囲

- (1) 本構造細目共通図は、下水道施設における処理場、ポンプ場の土木構造物の耐震補強に適用する。
- (2) 図面及び構造細目共通図に記載されていない事項は、下記に基づくものとし、これらに相違がある場合は監督職員に確認し指示を受ける。
- | | | |
|---|-----------------|-----------|
| 1) 土木工事特記仕様書 | 全国上下水道コンサルタント協会 | (別紙による。) |
| 2) 土木工事共通仕様書 | 国土交通省**地方整備局 | (令和 年版) |
| 3) コンクリート標準示方書・施工編 | 土木学会 | (2017年版) |
| 4) コンクリート標準示方書・構造性能照査編 | 土木学会 | (2002年版) |
| 5) 官庁施設の総合耐震診断・改修基準及び同解説 | 建築安全センター | (平成 8 年版) |
| 6) 鉄筋定着・継手指針 | 土木学会 | (2020年版) |
| 7) 2017年改訂版 既存鉄筋コンクリート造建築物の耐震改修設計指針・同解説 | 日本建築防災協会 | (2017年版) |
| 8) あと施工アンカー連続繊維補強設計・施工指針 | 国土交通省 | (2006年版) |

9.2 鉄筋の仕様及び継手

鉄筋の種類及び継手は9.2表による。

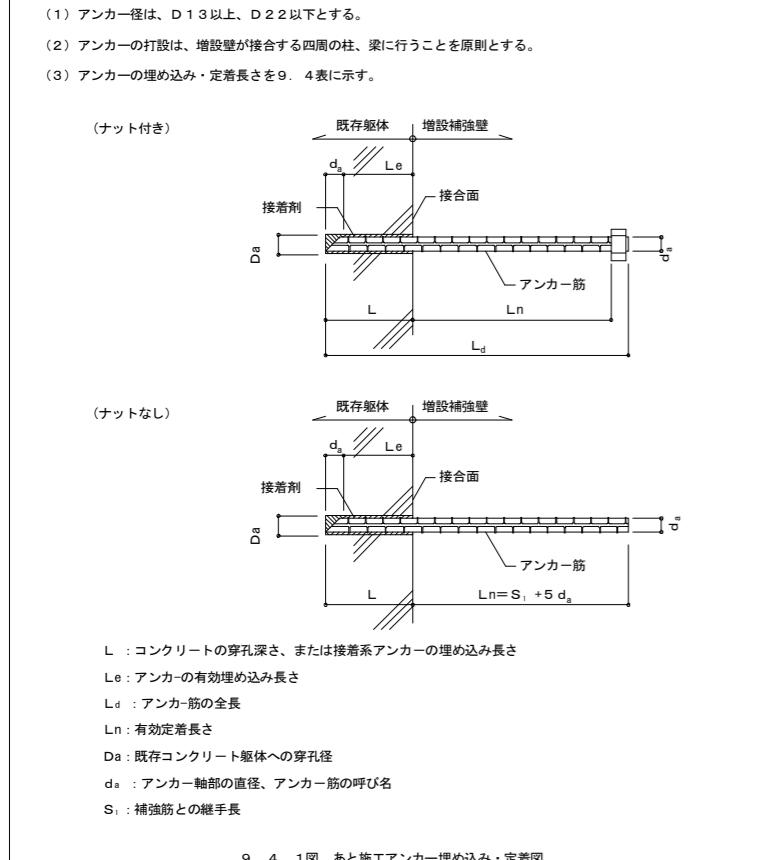
種別	径	
鉄筋の種類	※SD345 ※D13以上	
鉄筋の継手	重ね継手	下記以外
	ガス圧接	・D19以上の柱、梁主鉄筋 ・D16以上の増設端の床・壁鉄筋
	フレア溶接	・D13以上
	機械式継手	・図面による

※1) 既存の鉄筋種別がSR235、295及びSD295Aの場合は、SD材との継手にガス圧接を使用してはならない。

9.3 鉄筋の継手長及び定着長

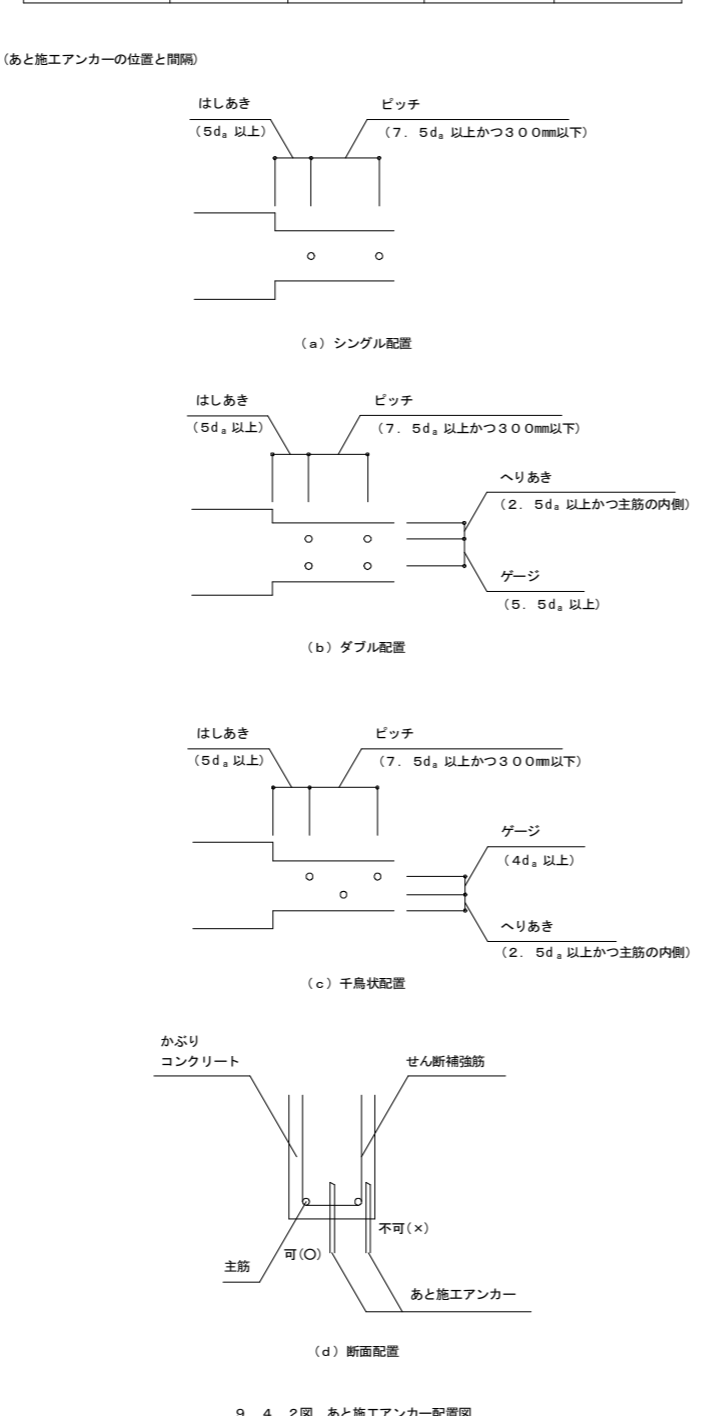
SD345以外の鉄筋との継手長・定着長については図面による。

9.4 あと施工アンカー（接着系）



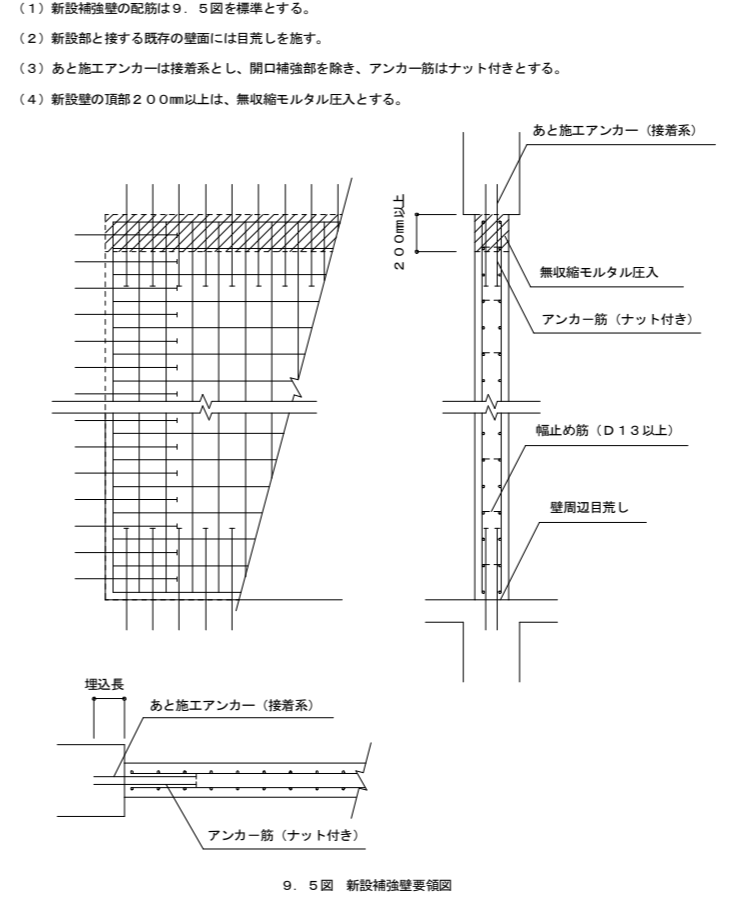
9.4表 あと施工アンカー埋め込み・定着長さ

区分	位置	用途	長さ	備考
有効埋め込み長 (L_e)	一般部	曲げモーメント	$12 \cdot d_a$	先端形状45° カット
		せん断力	$7 \cdot d_a$	
	開口補強部	曲げモーメント	$12 \cdot d_a$	
		せん断力	$10 \cdot d_a$	
有効定着長 (L_n)	一般部	-	$20 \cdot d_a$	ナットあり
	開口補強部	-	$S_i + 5 \cdot d_a$	ナットなし

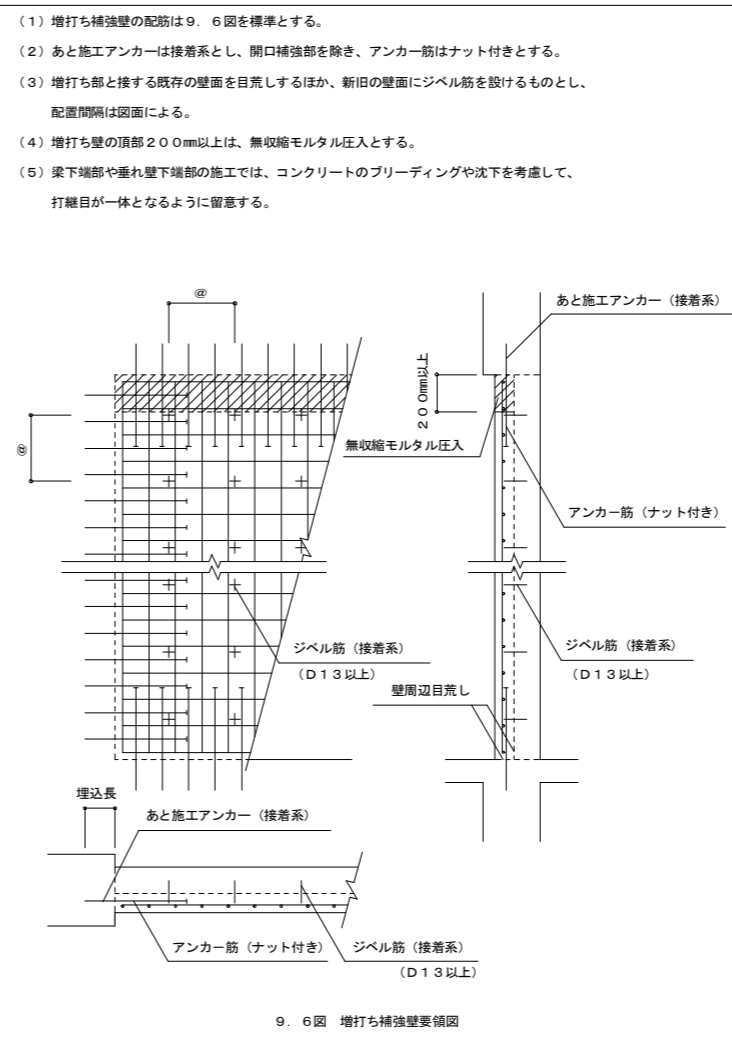


9.4.2図 あと施工アンカー配置図

9.5 新設補強壁

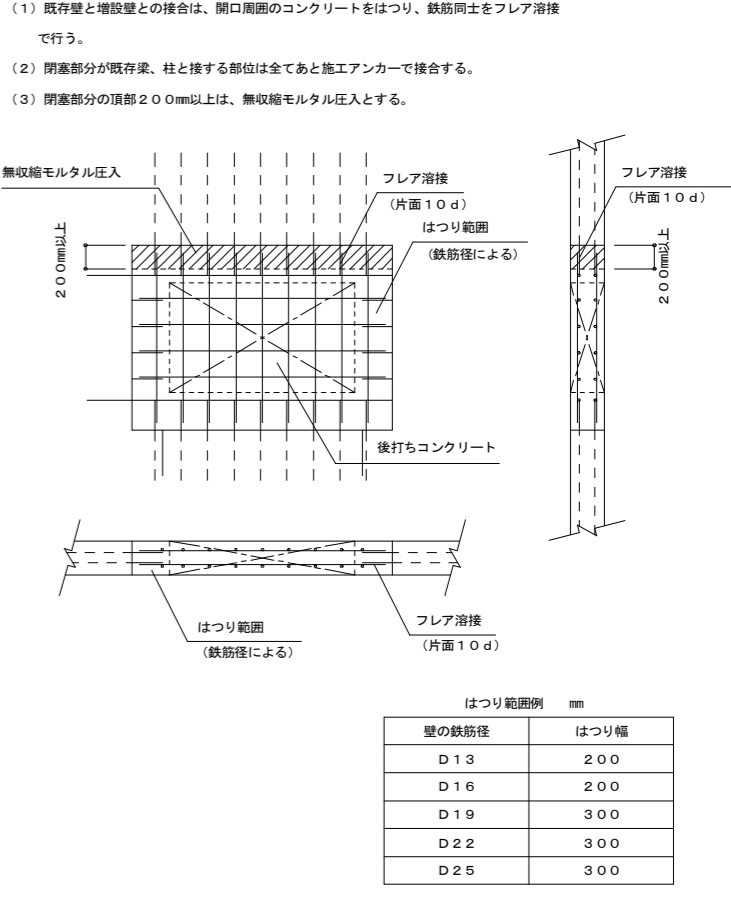


9.6 増打ち補強壁ほか



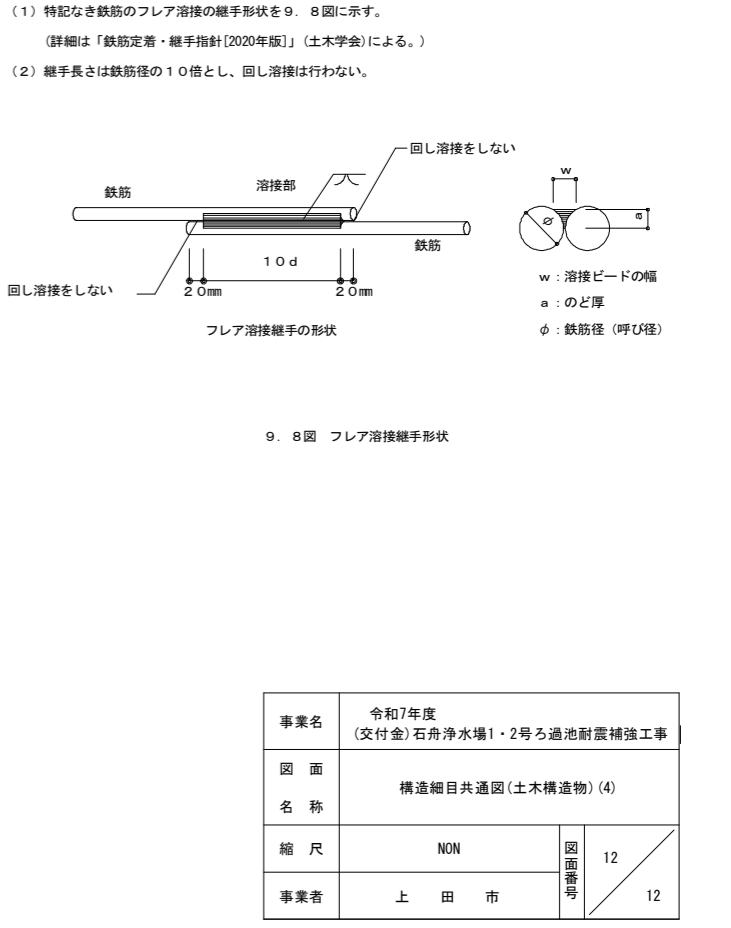
9.6図 増打ち補強壁要領図

9.7 開口閉塞



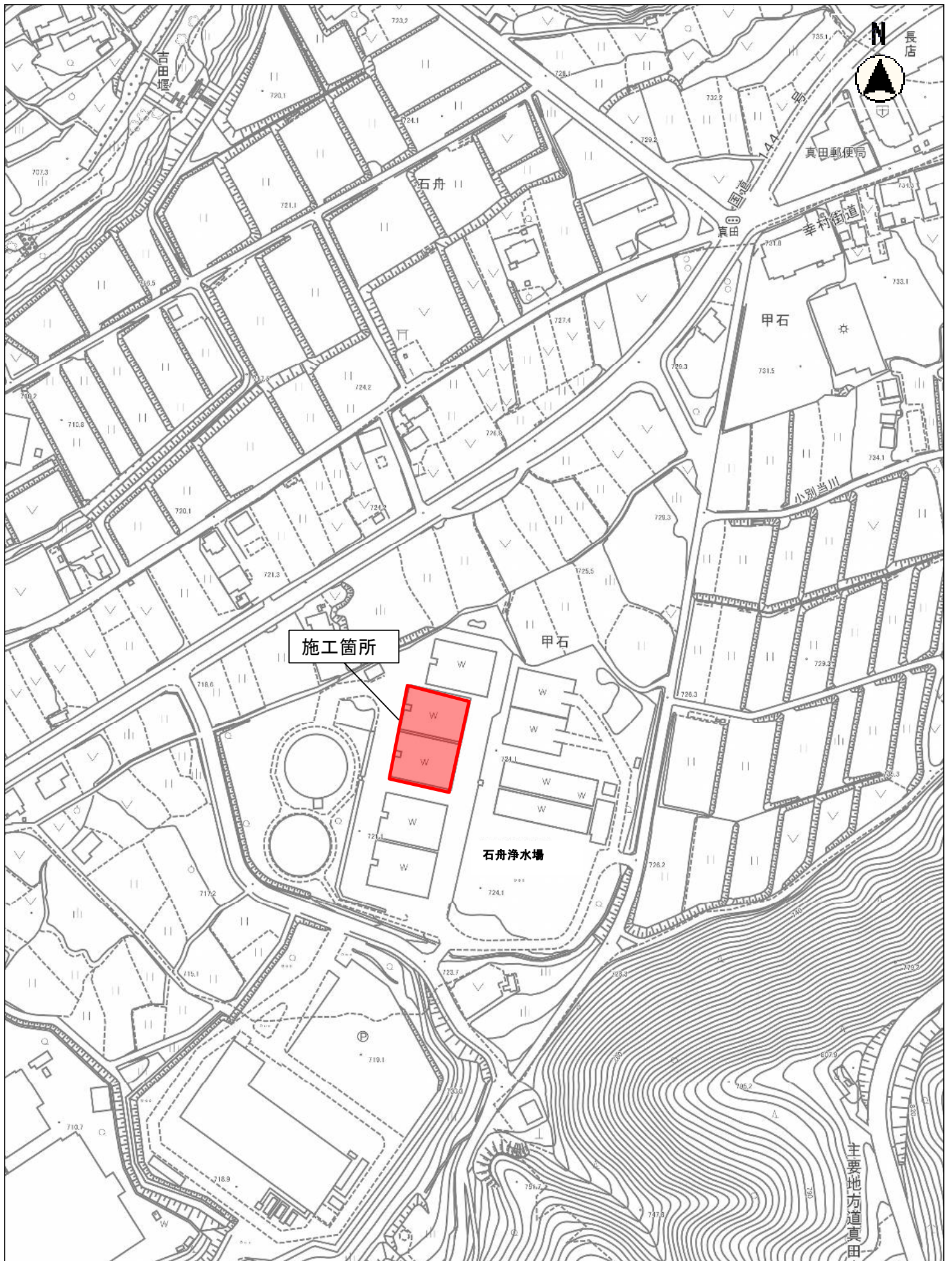
9.7図 開口閉塞要領図

9.8 フレア溶接



9.8図 フレア溶接継手形状

事業名	令和7年度(交付金)石舟浄水場1・2号ろ過池耐震補強工事		
図面名称	構造細目共通図(土木構造物)(4)		
縮尺	NON	図面番号	12
事業者	上田市		12



縮尺 1 : 2500

